

第30期社会教育委員の会議

第2回定例会

議事録

令和4年8月4日

【１】開催日時

令和４年８月４日（木）１８時３０分～２０時３０分

【２】開催場所

教育会館３階 研修室「ぎんが」

【３】出席委員

井上委員（議長）、堀井委員（副議長）、峯岸委員、奥平委員、豊田委員、
村上委員、佐藤委員、新海委員、山崎委員

【４】出席職員

教育委員会事務局

内田生涯学習部長、加野生涯学習・地域学校連携課長

佐々木社会教育係長、御園生社会教育担当係長、清野社会教育係主任

【５】傍聴人

無し

【６】次第

１ 第１回議事録の承認

２ 議事

（１）世田谷区社会教育関係団体に対する補助金交付について

（２）グループワーク～持続可能な活動とは～

３ その他

（１）次回日程について

○議長 定刻になりましたので、ただいまから第30期社会教育委員の会議第2回定例会を開催いたします。

開催に先立ちまして、本日は委員が御都合により欠席の連絡をいただいておりますので、御報告いたします。

それでは、本日の議事日程に従って進めさせていただきます。

まず、第1回議事録（案）の承認でございます。事務局より事前に送付されておりますので、委員の皆様には御確認いただいておりますが、訂正等がありましたら、この場で申し出ていただき、皆さんと確認したいと思います。いかがでしょうか。

ないようでしたら、御承認をお願いいたします。その後、軽微なものがもしあれば、またその都度、字句の修正などあったらお知らせいただければと思います。では、承認とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、この会議終了後、峯岸委員と奥平委員に署名をしてくださいますようお願いいたします。あわせて、今回の議事録の署名については、豊田委員と村上委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、修正の有無にかかわらず、後日、事務局より完成版を配付されることになっておりますので、併せてよろしくお願いいたします。

では、議事に移ります。

前回は社会教育関係団体に対する補助金について、4団体について伺ってまいりましたが、本日は残りの3団体について、事務局より説明をしていただいた後に、皆様から御意見をいただきたいと思います。っております。

では、事務局の説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、事務局より御説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ただいま議長から御説明がございましたとおり、第1回の会議では、社会教育関係団体、7団体のうち4団体の御意見を頂戴いたしました。本日、第2回の会議では、残る3団体につきまして御意見を頂戴したいと存じます。

まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。資料2、令和4年度社会教育関係団体に対する補助金交付一覧（案）、A4横の資料が1部でございます。資料2-1、世田谷区立学校PTA連合体補助金交付要綱、A4の縦でございます。左上で留めてございます。3点目です。左上に参考資料とございます各団体の補助金申請資料でございます。この3

つでございますが、お手元でございますでしょうか。

それでは、進めさせていただきます。

なお、別冊にさせていただいております参考資料ですが、前回と同様、こちらは各団体から提出された事業計画、経費算定の内訳がございますのと併せて、個人情報も含まれる関係がございます。この御説明終了後に回収をさせていただきたいと存じますので、御了承ください。

それでは、改めまして、補助金の交付に当たってでございますが、これは社会教育法第13条及び補助金交付要綱第6条の規定によりまして、交付の決定に当たっては社会教育委員の会議の意見をお聞きした上で行うとなっております。世田谷区教育委員会では、社会教育関係団体である区立幼稚園、区立小学校・中学校のPTA連合体を補助事業者として、世田谷区立学校PTA連合体補助金交付要綱に基づく補助金の交付を行っております。こちらの世田谷区立学校PTA連合体に対する補助金ですが、目的としましては、資料2-1、区立学校PTA連合体補助金交付要綱第1条にございます世田谷区における区立幼稚園、区立小学校・中学校PTA活動を通して、社会教育、家庭教育の充実をうながすと共に、学校教育との連携を深め、児童、生徒の健全育成の増進を図るために交付をしております。

続きまして、第2条に補助事業、第3条に補助事業者を明記しております。また、補助金の交付限度額におきましては、第4条に各事業者について限度額を明示しております。

今回申請のありました3団体は、それぞれに園児、児童、生徒に対する教育の健全な発展と振興に寄与すること、PTA相互の連絡、情報共有の下、共通の目的達成のために事業を実施しております。

現在、区立幼稚園は7園を世田谷区立幼稚園・こども園PTA連絡協議会がまとめ、区立小学校61校を世田谷区立小学校PTA連合協議会がまとめ、区立中学校29校を世田谷区立中学校PTA連合協議会が取りまとめを行っております。特に1つの園や1つの学校の単位PTAと申しております活動とは別に、連合体として子どもたちの健やかな成長を願う、そして教育環境をよりよく整備するために、教育条件整備要望書として全体意見の取りまとめを行って、教育委員会宛てに要望書の提出を行っております。また、PTAの課題解決のための研修会や有効な取組を行っている単Pの情報共有など、活動を積極的に行っている団体でございます。

令和4年度の申請につきましては、世田谷区立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、

事業としまして広報活動事業、各PTAとの事務調整に関する事業の申請を提出されています。世田谷区立小学校PTA連合協議会と中学校PTA連合協議会は、広報啓発事業の申請を行っております。

それでは、委員の皆様の御意見を承ります。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長 ありがとうございます。ただいま説明いただきました社会教育関係団体3つ、PTA関係の団体に対する補助金交付について、御質問や御意見等がありましたらお願いいたします。

○委員 世中Pのところを見ていたのですがけれども、補助金交付申請書のホチキス留めのものの一番後ろに令和4年度の予算案がございまして、こちらに広報発行費が前年度予算額60万円から10万円増額して70万円になっています。備考のところに増刷のため増額と書いてあるのですがけれども、実は3月ぐらいに世中P連から歴代会長宛てに手紙が参りまして、それまで毎年発行していた広報紙を退任した過去のP連会長宛てに毎年送っていたのですが、それを私たちの住まいに直接送られてくるものですから、個人情報の管理の観点から、旧会長といえども住所を引き継いでいくのが難しいということで、今年度から広報紙の発送をやめさせていただきますというお手紙が来ました。ということは、各歴代会長に送られていた何十冊かであろう広報紙が発送されなくなるということを鑑みて、なぜここに増刷と書いてあるのか、ちょっとそのあたりが分からないので、もし何か御存じでいらっしゃったら教えていただきたいと思います。

○事務局 まず、PTA連合協議会様からいただいておりますのは、今年度の予算案とお伺いしております。増刷ということは伺っておるんですが、これが、年2回の発行ではあるのですが、ページ数の増加なのか、配布数の増加なのかというと、大変恐縮でございますが、そこまでの詳細なお話は承ってはいない状況でございます。

一方で、補助金ですけれども、交付決定は、あくまで予定の中で承っておりますもので、結果的に今お話がございました発送先の減等がございました場合は、その広報発行費がその他の額に満たない場合については、最終的には実績報告に基づきまして、必要に応じまして精算行為を行うという流れになってございますので、今回、こちらの交付決定が行われました後に連合協議会様のほうには、その旨につきましても実績報告の際にきちんと御報告をいただくようにと私どものほうからも指導してまいりたいと存じております。

○委員 ありがとうございます。

○議長 そのほかいかがでしょうか。

○委員 補助金対象事業で小学校と中学校はどちらも広報活動のためということなんですが、幼稚園のほうが交通費と通信費に対する補助になっています。第2条（補助事業）の中の1番から6番までの中で6番の「PTA団体の経常運営事務費（教育長が特に認めた場合に限る。）」とあるんですが、その辺との兼ね合いはどうなっているのか。許容範囲なのかということでお尋ねしたいと思います。

○事務局 このたび区立幼稚園・こども園PTA連絡協議会様から御提出いただきました内容につきまして、詳細を協議会様にも確認をさせていただきました。具体なお話ですが、補助事業の項目といたしましては、各単体の園への事務連絡、それからPTA間の事務調整のための交通費がメインであるということでお伺っております。このことから、第2条（補助事業）における「(2)各単位PTA団体間の事務調整に関する事業」が事業としての補助項目となるということで事務局として判断をさせていただきました上で、今回の申請をお受けさせていただきました。

○委員 了解しました。

○議長 ほかにいかがでしょうか。

私から1つ、これは令和4年度と参考までに令和3年度の補助金交付の資料が出ていますが、例年これぐらいの感じなんですか。経年で10年ぐらい見た場合に、例えば増えているとか、減っているとか、どういうものが増えていて、どういう交付の中身が変わっているのかということがあれば少し教えていただきたいのですが。

○事務局 まず、補助金の交付限度額でございますが、こちらは補助金交付要綱上第4条に規定がございます。こちらを限度額として、それぞれのPTA連絡協議会様から申請を頂戴しております。過去につきまして、すみません。手元にすぐに一覧はございませんけれども、予算に関しての予算規模につきましては、各PTA様の会費であったり繰越金がございますので、一律にこの予算規模の条件につきましては、こちらのほうで御説明はなかなか難しいところではございますけれども、補助金の交付申請に関しましては、昨年度と今年度につきましては基本的には同じ申請額を頂戴してございます。中には補助金交付限度額全部ではなく一部、小学校につきましては全体の中の交付に必要な金額のみを申請されているところがございますので、小学校PTA連合会様におかれましては、補助対象経費としては110万円ではございますけれども、活動の全体枠から見て、団体様から、この枠で申請を行いますと、全体の活動に見合った形での金額申請をさせていただきますということで70万円の申請をなさっていらっしゃいます。こちらは昨年度と同様と確認しており

ます。

過去10年につきましてというところでは、申し訳ございません。手元に資料がございませんけれども、今このような形で現況確認をしてございます。

○議長 ありがとうございます。質問の意図としては、交付して活動が活発になることが望ましいわけですが、恐らくかかる予算も、世の中の変化に基づいて、今までこういうものが必要だったのが、例えば紙ベースで何かやっていたものが、そうでなくなるとか、コロナのことがあったりとかいろいろ変わっていくだろうと考えております。その品目について一々チェックするのがここの場ではないと思うんですが、社会教育全体ということ考えたときに、そういった面での適切なアドバイスや方向性などを見極めるということも、ぜひ教育委員会のほうで考えていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ほかはいかがでしょうか。

では、特に御意見がこれ以上ないようでしたら、次の議題に移ります。

○議長 議事の2番目です。グループワークと書かれてございますけれども、前回、第1回のときに社会教育に関わる活動をされている委員の皆様からお話を聞かせていただきましたけれども、もう少し別途時間を取って伺ったらどうかという意見も出ておりました。その後、事務局と打合せをさせていただいたときに、11月にシンポジウムをしていくとすると、そんなに時間的なゆとりがございませんので、今日は第2回目で、本日は各委員の活動事例をもう少し聞かせていただいて、持続可能な活動はどういうことが必要なんだろうかということについて、グループワークを通じて考えていったらどうだろうかということになりました。

資料3を御覧いただきたいと思います。便宜上、AとBに分けました。委員にAグループの口火を切っていただいて、グループBでは委員に同じく口火を切っていただいて、それぞれ御自身の活動を通して、この検討事項に関わる問題を自由にいろいろと語っていただきます。その際、付箋や模造紙で、前期の29期のときにもそういう方法を取られたと伺っておりますので、それに書き込みながらグループワークを進めていただきたいと思っております。時間については、19時50分にそれぞれのグループでどんな話が出ていたのかを共有するための時間とさせていただきますので、そのときにどなたがお話しいただけるかも、ぜひグループワークのときに決めていただきたいと思います。20時に全体での意見交換。19時50分まではグループごとに意見共有していただいて、その後、20時で、またこの

ような形にさせていただきたいと思っております。

では、よろしくお願いします。

〔グループA〕

○委員 私の子ども食堂の話から、まず口火を切らせていただいて、お話を徐々にお聞きしていけたらと思っています。

まず、私は子ども2人を育てていて、介護をしていた中で、地域の方から、2015年に子ども食堂をやらないかと声をかけられたことから、こういった地域活動を始めた者です。それから、今、活動としては3つ、みっとという活動と、松沢中学校の調理室を借りて子どもと一緒に御飯を作って食べるユースキッチンをやっていて、この5月からまつばら子ども食堂といって、松原小学校の隣のまちづくりセンターの中での活動をしています。それぞれ子ども食堂とか、子どもと一緒に作って食べるという活動のスタイルは似ているんですけども、趣旨的なこととか集まっているメンバーの思いは全く違うものなんですね。そういった中で、それぞれの活動の中でまとめていくのは難しいので、私がどうしてこういう地域活動をずっと続けているかというところの話をさせていただきたいと思っています。

持続性という意味では、初めは課題を持って、課題解決の気持ちが強くて、子ども食堂といえば貧困の子どもに食事を十分に食べてもらいたいとか、来た子どもたちのいろいろな環境を聞く中でというような課題を持って活動をしていたんですけども、その一つ一つに私とかメンバーで深く立ち入っていくことは地域活動ではないんだなということをやっていく中で感じ、それよりももっと浅く広くという意味ではないんですけども、地域という視点でいうならば、もっと力をつけるとか、ほんわりと包み込むといったようなことのほうが手伝いやすいんじゃないかということからユースキッチンで一緒に作っていくということを始めました。子ども食堂の活動をしている中で出会った人たちで、高齢で続けられなくなってしまったというようなことから、その後をやっていただけないかというお話を受けての新たな活動ということで、つながりとか出会いということの中で、その楽しさとか面白さとか、その中で自分の成長が感じられることとともに、子どもたちの成長も見られるというような、包括的に楽しいという言葉だけではない、やりがいとかを感じてのことだと思います。

今新しく始めたメンバーの中には、自分もこういった活動を立ち上げたいと思っている

方もいれば、もう年齢も高くなったので、行く行くは自分がお世話になる立場で、その前に地域のことをしたいという方だったり、あとは定年されて地域に戻っている時間が長くなったけれど、地域のことを何も知らないし、友達もいないから、その取っかかりとして何かと思っていたというような方、あと早期退職をして次に働くまでの間、何かしたいと思ってというような思いは様々ですし、活動の関わり方も様々です。そういった方たちなので、子どもに関してはある意味素人というんではないんですけれども、全く子どもを育てていない方もたくさんいらっしゃいますし、子育て真っただ中の方もいるのですが、預かったり指導したり、保育的な立場にいる方がいない。今の子ども食堂はそういう場なんです。前にいたところは主任児童委員さんや保育士経験者の方がいて、活動していると、全く視点も違ったり、当たり前なのが違っていた中で、同じ活動でも視点が違うと子どもへの対応が全く違う。でも、来ている子どもたちはどうかというと、それはそれで楽しそうだったり、その中で何とか自分の場所を見つけたり、主張したりということがあります。

何が言いたいかというと、うまく続けていく要因は、その場その場でフレキシブルに対応できるコアなメンバーがいるということじゃないかと思っています。そして、固定するのではなく、変化を楽しみながら、その中で子どもの成長とともに自分たちの成長とか楽しさが感じられる風通しのよさとか自由さがあることじゃないかなと、この3つの活動について思っていることです。

そんな感じの子ども食堂なので、専門家がいなかったことの危うさもある反面、自由さもあるのですが、やはりセーフティーネットは大事なので、どんな活動でもルールをつくること、場の安全を守るためにはルールが必要だなということで、メンバーとルールを決めてやるということ、何かあったときには必ず相談し合う、誰かだけが強い意見で押し通していくことのないようにということだけは気にしています。

○委員 「活動がうまくいっている要因は何か」。

○委員 その時々の変化に応じたフレキシブルさですかね。あと、風通しのよさとか。

○委員 変化に対して常に対処していくということですか。

○委員 そうですね。柔軟性ですかね。

○委員 柔軟性ですね。

○委員 あとはルールを決める。この活動は、例えば地域でつながりをつくるためなのか、子どもの食事を提供することなのかというメインのぶれない柱を決めておく。何か問題が

起こったり意見が違ったときに、必ずそこに立ち戻って、これはこの活動の趣旨に沿っているのか。

○委員　そういう書いたものはあるんですか。

○委員　貼ってあるというよりは、趣意書みたいな感じで作ってはあります。

○委員　文章化してあるわけですか。

○委員　はい。

○委員　基本の考え方は文章化しておくということですか。特にルール3つ貼ってとか、そういうのはないんですか。

○委員　それは特にない。子どもに対しては、走らない、今だと大きな声は出さないとか、来たら手を洗うとか、そういうことはしています。

○委員　趣旨を文章化するというだけでいいですか。

○委員　はい。あまり難しく考えないで、そんなことでやっています。

○委員　人集めということでは。

○委員　人集めでは、メンバーの人は、1つ大事なものは、来てくれた人は、自分が主体的に、例えば料理でもいいんですけれども、このことをやりたいとか主体性を持っていることがすごく大事で、全部指示待ちじゃないので、その中でメンバー集めとか子どもを集めるということは、皆さんやりたがらないことの筆頭なので、ほぼほぼ私がやっています。

○委員　柱になる方がいるんでしょうけれども、それと、お手伝いしている方もある程度主体性を持ってやるということ。

○委員　という方を集めるためには、いろんなところに行って、こういう活動をしているというのを何となくしゃべっています。この間も「居場所サミット」に行ったときに、新しく子ども食堂を立ち上げましたと言いましたら、そのことに、近くに住んでいるんだとか松原小学校の支援員を最近始めたのだと言ってお手伝いに来てくれる方がいたりとか、私の習い事のところで、「働きもせずに、ふだん暇じゃない？」と言われたときに、こんなことをしていますと言うと、「え、私、そういうこと興味があるの」と意外なところから意外なお返事が来ます。そうすると、今までこういう地域活動をしていない人たちが随分入ってきてくれたりする。

○委員　人脈は委員の人脈ですか。それとも。

○委員　そうすると、次の人を連れてきてくれたりということもあるので、意外と口コミがよく、向こうから来てくださった方は、何となくメンバーとの空気感が合わなくてお断

りしてしまうこともあったりします。人材は口コミで、今のところそんな感じの規模でやっています。あまり私、社交的ではないので、片寄りがあるかもしれませんが、それはそれでというところです。なので、私の人材スタートで、あとは社協さんに私に合いそうな人、この活動に合いそうな人がいたら教えてくださいと言っています。

○委員 やっぱり中心になる人材と人の輪ができるということですね。

○委員 そうですね。皆さん部分的にはやりたいけれど、お子さんもそうなんですけど、継続的に来てくれる、関わってくれる人がどれだけいるかというのが、こういった活動のポイントかもしれません。1人でも2人でも必ず来てくれる子ども、メンバーがいるということがポイントですかね。なので、うまくいかないときは私のモチベーションが下がってしまったり、抱え込み過ぎちゃったりとか、考え過ぎちゃったりとか、そういったことの要因が多いかもしれません。

あとは、こういったいろいろな活動の中からいろいろなつながりが広がっていく楽しさがあるかなとは思っています。

○委員 今度は、「活動がうまくいっていない要因」は。

○委員 松原の新しく立ち上げた子ども食堂についてちょっと聞きたいんですけど、立ち上げる前にも子ども食堂はあったじゃないですか。それはどうなったんですか。

○委員 それは、代表の方が高齢なのと、御家庭の御事情があって、一度終わりにして、前に来ていた方たちもいますし、スタッフの方も続けたいという方もいらしたので、一度説明会を持って、新しく私が代表としてやりますけれども、どうですかという形です。

○委員 というのは、前の子ども食堂のときに、運営の仕方で内部でもめていたので、私ちょっと知っているんですよ。それで、運営している人たちが、どうするということで、その点ですごく悩んでいたんですね。先ほどお話があったけれども、空気感が合わなくてお断りするかもという、そこにも関係するし、全員知っているわけじゃないけれども、何となくその場その場で対応できる人は、そのときも結構来ていたと思うんですけども、その中で、考え方が対立しているというか、リーダーシップを誰が取るかというところで、リーダーとしての必要な資質ということなんですけれども、そういう力が要るんじゃないかなと思ったんです。前のうまくいっていなかったときには、リーダーが結構強い感じで、強い意見の人が来て、それでぎくしゃくしていたというところは聞いていないかもしれないんですけど。

○委員 何となく。

○委員 それが3年以上前の話なんですね。それで、もうやめようかなということもあったりしていました。なので、御高齢の方の理由の中には、そういうのでお悩みだったということはないかなとか察するんですね。だから、あそこにまちづくりセンターができたところがいい機会で、場所が提供されて、新しく申請されたということがよかったかもしれないと、今聞いていて思いました。

○委員 コロナということもあって、ちょっと間が空いたので。

○委員 その前は、やっている本人たちもつらい時期があって、もうやめたいというものもちょっと相談を受けていたので、活動がうまくいかない要因になると思います。

○委員 指導者といっていいんですか、それとも賄いというものもおかしい。

○委員 代表ですかね。やはり最後は代表の責任がある。

○委員 やっている方全体をどういうふうな名称をつけているんですか。

○委員 代表、副代表とか、料理してくれる人は料理長とか。

○委員 でも、何人かもっといますよね。

○委員 スタッフとお手伝いさんと学生ボランティアという形で分けていますね。スタッフは固定で、ミーティングをするときでも何でも必ずコアになってくれるメンバーで、今5人なんですけれども、あとは随時手伝いたいという方で時間がいいときに来たいという方をお試しで来ていただいて、そのときには、さっき言いましたように空気感があって、おっとりした感じなのにバンバンバンと来て、だーっとされると……。

○委員 さっきのお話は、スタッフじゃなくて、その上のリーダーになる方の問題ですか。

○委員 多分リーダー的な感じで発言しちゃう後から来た人というのが正しいのかもしれない。

○委員 そうすると、人間関係がぎくしゃくしてくる場合もあると。

○委員 そのときは、していたと思います。それで悩んでいて、子ども食堂を初期の段階で立ち上げた何とかさんという男性の人に相談したりしていました。そういうこともあったみたいですね。

○委員 来ていただいた方の御要望に私が応えるだけのキャパがないので、でも皆さん地域の方たちなので、こういった活動に関心を持っていただくことはありがたいので、ちょっと距離を置きながら関わっていただきたいみたいな形で、全ては受け入れられないかな。そして、1回どうぞと言ってしまったら、辞めてくださいということは言いづらい。でも、切られたとか、断られたとか、やっぱりいろんなことを言われますよね。

- 委員 人間、複数集まると、どうしても全部が全部意見が同じじゃないからね。
- 委員 その辺はこういった趣旨でという話を包み隠さずですかね。
- 委員 そうというのは、「うまくいっていない要因」の中に入るんでしょうね。
- 委員 人と人との関係で、誰かが我慢かな。
- 委員 あとは何ですか。例えば材料の問題とか、経済的な問題とか、そういうマイナス要因はありますか。
- 委員 今は補助金とか助成金とか、私のやっている地域は寄附を下さる方もいらっしゃるんで、そういった意味では、基本的には資金面をどうするかというので、代表の人が全部持ってやっているところもありますね。そうすると好きにできるとか、あとは宗教ではないんですけど、そういった団体だったり。
- 委員 慈善団体みたいな。
- 委員 はい。バックに企業さんがいたりとか、特に子ども食堂に制約はないので、今いろいろな形があります。
- 委員 聞くとところによると、コロナで食堂が子どもたちに食べ物をやれないので、食料品だけを配るという活動がかなりあったと聞いたんですけど。
- 委員 私の前にいた子ども食堂は、今、フードパッケージといって社協さんからリストを頂いて必要な家庭をチョイスして、月1回だと思うんですけども、段ボールに食材を詰めて送っている。
- 委員 その場合には食材は社協さんからもらえるんですか。
- 委員 社協さんだったり、あとは独自に自分たちのルートで集めた食材を詰めて、いいと思って送ったんですけど、結局後でアンケートを取ったら、これは要らない、あれは要らないで残ったのはお米だったとかという話もあって、物を送るというのなかなか難しいので、取りに来ることすらできない家族もいるということでは、送ったりとか弁当を作ってお渡ししたりとか、いろんな形で工夫をしてやっていますね。
- 委員 今のところ経済的な意味のデメリットはないということですか。
- 委員 そういったときにも東京都が特別助成金を結構たくさん出してくださっていたので、逆に今のほうがやりやすいかと思います。審査のハードルも低かったり、立ち上げのお金も出たりということであると、当初の苦勞の、説明して、こんなことをやってどうなのと言われたこととかは逆にはないですかね。
- 委員 今のところ、「うまくいっていない」ということまではいっていない。

○委員 要因がないのは、ユースキッチンが2人でやっているんです。基本、私が料理を作ってレシピを作る担当、もう1人の方が主任児童委員さんだった方なので、子どもたちとの関係をつくる担当と分けていて、あと、社協さんの地区担当の人が入って、本当に少ないメンバーできゅっとやっているのがユースキッチンです。もう1つの松原キッチンのほうは、地域の顔見知りを増やすことが趣旨なので、地域の方は比較的ウェルカムにしながら、明治大学が近いので明大のボランティアサークルさんに入ってもらってということで、あらかじめ人はわちゃわちゃするということを覚悟でやっているの、あまり問題がない。

○委員 例えば一般論でうまくいっていないところの情報はあるんですか。

○委員 子どもさんが集まらないとか、メンバーの中での問題があるということが多いかもしれない。

○委員 子どもが集まらないというのはどういうことですか。来たがらないとか。

○委員 地域によっては、子ども食堂というと貧困家庭といったイメージがあったりすることもある、なかなか……。

○委員 マイナスイメージで取られちゃう。

○委員 取られてということもありますし、逆に都合よく使われてしまうのが嫌で比較的制限をかけたなら来なくなったとか、必要なところに届けたいがためにやったけれども、うまくそのことがいかなかったということと、今コロナになってしまったので、活動自体がなかなか難しい。一緒に食べるということに子ども食堂の意味があって、お弁当を持って帰ってもらって食を満たすということよりも、一緒に食べていろんな人と交わる中で子どもの情緒的な安定があったり成長があると思って活動しているのが世田谷の多くの子ども食堂だと思うので、それができなくなったということで、活動に意味があるのかと思っている方もすごくいると思います。

○委員 それは参加者という意味で？ スタッフのほうという意味？

○委員 スタッフのほうで、そもそもの活動の意味が今のこの状況だと達せられないかなということで考えている方もいると思います。

○委員 黙食なんですか。

○委員 まだ立ち上がったばかりなので、子どもたちは緊張していて、初めは言わなくても黙食でした。だんだん同じように……。

○委員 教室と同じようになっていく。パーティションなんですか。

○委員 パーティションはしていなくて、対面はありますけど、この席に2人座るぐらいの感じで、公に募集をかけていないので、ロコミと前に来ていた方たちだけなので、まだ10人ぐらいの子どもたちということでやっているの、そんな感じですね。そういう意味では、今はそういう形ですけども、行く行く慣れてくれば子どもたちも暴れてくるし、また活動にいろいろな問題が出てきて、子どもは絶対に暴れるし騒ぐし悪いことをするので、今のメンバーでいえば、その扱いに慣れた人がいないので、私が今思っていることは、けんかはさせない。けんかができるのが子ども食堂のよさじゃないかというの、いやいや、そうじゃなくて、ここは御飯を食べるところだということを意識づけようと思っています。多分、乱暴なことを治めていくのはすごくノウハウが要りますよね。事前に察知して学生さんに、そうさせないでねと言っても、彼らはやっぱり遠慮するので、なかなかそれができないといったときに、それを見ている自分がストレスになるのが一番ストレスなので、であるならば、もうここは、そうやって暴れる場所じゃないよということを伝えていくことからやったほうがいいのかなどはと思っています。

○委員 出入り禁止になった子どもがいました。それは親御さんにも問題があつて。

○委員 そうですね。一番は親御さんに理解があれば何とかなるところもあるかもしれないので、そういう意味では、きれいごとではいかないです。

○委員 うまくいっていない要因の中には、本当にその活動の意図が理解されていないということがあると思います。

○委員 そうですね。

○委員 それは参加者にもスタッフにも言えること？

○委員 特に子ども食堂の子どもの親がどういう思いでそこに参加させているかということとを本当に分かっているのか。以前の話で、今は別かかもしれませんが、そういうふうを感じることはありました。

○委員 以前は面接されていたんですよね。代表が親御さんと……。

○委員 子どもでやっていたみたいですよ。今は違う？

○委員 今はしていないです。

○委員 全部受入れオーケーですか。

○委員 以前の方たちの引継ぎということもあるんですけど、面接をしたところでそういう力量を自分には感じないので、親御さんと一緒に初めは来てもらって、こういうところですけど、どうですかといって、ここだったら来ないと思ったら、あちら判断に任せて

います。アレルギー対応はやっていませんとか、こういった活動の場なので、こうこうこういうことまでしかできませんとか、こういうルールがありますということをおあらかじめ話しながら、小学生であればお迎えには来てくださいということをやって、事前には連絡を入れてということをしています。

○議長 どういう子どもが来るんですか。

○委員 今は兄弟の多い子が多いですね。3人兄弟だったりとか、ヒアリングをしていないのではっきりは分からないのですが、ちょっと学校に行きづらかったりとか、やはり経済的に難しいことを抱えている感じがあります。あと、来てくれている子で、多分学校で大変じゃないかなという感じで、お母さんが、思春期に入ってうちではほとんど口を利いていないのよという子なんですけれども、見ていると、下の子にちょっかいを出すんですね。それは痛いよねと言うと、結構子どもは粹がるので、やられている子は、いや、平気だよとか、遊びだよとか言うんですけど、明らかにそれは嫌だろうなと思ったときに離そうと思っても、磁石のように不思議と離れないんですよ。そのときにどうするかということで、今やっているのは、お兄ちゃんのほうがお料理に興味があるので、調理場のほうに誘っていくとか、違う興味をとというような、そんなこと、こんなことをやりながらという感じです。

○委員 食べさせるだけじゃないんですね。教育も入っているんですね。

○委員 そうですね。やっぱり子どもって食べるだけじゃ来ないので、オセロをやったりジェンガをやったりで落ち着いて楽しんでくればいいんですけど、ふだん持っているもやもやをどこかで出したいとなったときに、どう出すか。承認欲求が比較的みんな強くて、見て見て、これどうとか、例えば悪いことをやると、必ずやめなさいとみんなが来る、その様子が分かっている。であるなら、褒めるほうでいっぱい承認の欲求を満たしてあげるほうがいいなと思って、そんな感じです。

○委員 私はある子ども食堂に体験に行ったときに、カレーライスだったんですけども、食べさせて、食べるのが主として、終わってから地域の人が歌を歌って、結構うまいんですよ。歌ったり、手品をやったりして、食べるのが大体40分ぐらいかな。その後、同じぐらいの時間でレクリエーションのタイムがあって、すごいなと思って関心したことがあったんですが、そういうふうな形で大体やるんですか。それとも、いろんなケースがあると思うんですけどもね。

○委員 うちは来て宿題をやる子もいれば、遊んだり工作したりで、大学生が5人ぐらい

来てくれるので、1人に1人ついたりということなので、そういうレクリエーションに興味を持って座っている子たちはいいんですけど、落ち着けない子、もっと違うことをしたかったり走り回りたいくなっちゃったりとか、比較的情緒が安定しない子が来る傾向にあるので、みんなでやれることまで持っていければ、本当にすごくいいと思います。そこに注目して見る。でも、学校でさんざんそれをしているので、学童へ行ったりという中で、そうじゃない個を見てほしいという感じの子が多いような気がするんですけど。

○委員 親がそこに送り出しているということはないですか。

○委員 どうですかね。

○委員 もしかしたら養育の問題で手に負えないなと親が日頃から疲れている場合に、行っていられっやいというようなところはないですか。

○委員 さっきも言いましたけれども、3人兄弟の3番目が幼児さんだったりすると、お母さんも来てくれるんですよね。食事を4人でとなると、初めは、はあんとしていても、何となくスタッフの誰かと打ち解けてくる。私のキャラに合わなくても、ほかのメンバーと仲よくなったりということがあるので、比較的今、かたくなだったお母さんも何となくなじんできたり、逆にお母さんがいないほうがお子さんがよかったりすると、置いていってくれたりとかもある。

○議長 頻度はどれぐらいなんですか。

○委員 頻度は月2回です。心配なお友達の御家庭を呼んできてくれたりという感じで、ちょっとずつ増えているので、スタッフが、もっとじゃんじゃん来たほうがやりがいを感じるから、もっと子どもを増やせと言うんですけど、いやいや、これでやるのはちょっと危険で、もうちょっと待ってゆっくりやっていきましょうということです。

○委員 私がその時に感じたのは、スタッフの方も言っていたんだけど、子どもたちは食べるものもないとか、そういう困っているというよりも、地域の人がみんな集まってやっているという一つの安心感の空間があるなというのが正直な感想だったんですよね。子ども食堂というのは、もちろん子どもに食べさせる、それが目的だけでも、地域の温かい雰囲気大事なんだなというのが正直な感想です。

○委員 まさに昨日あったんですけども、帰られるときにお母様が、こうやってほっとできる場があるっていうのはいいなと言って帰られた。

○委員 地域には児童館とかいろいろあるんだろうけれども、学校が終わって習い事もあったりして、でも、みんな平等みたいな感じでいい雰囲気で、そのムードが一番かな。で

も、この中で本当に困っている子どもたちがそんなにいるのかなと思いながらもね。

○委員 困っている子どもの親は、学校ではもう既に自分の子どもがさんざん迷惑をかけていると思っているので、打ち解けて誰かにすすむということができないでいるはずです。だから、内心孤立している。誰にも助けが求められないという感じですね。自分のお子さんは、もうほかの子たちにいろいろやっちゃっているから、学年が上になればなるほど、それを数年間やってきているので、そういう関係の中で、親としてはすごく肩身が狭いというか、出て行って、ありがとうございますも言えないでいると思います。

○委員 そういう親子は、こういう子ども食堂のほうがいいわけですね。

○委員 そのほうがいいかもしれない。今聞いていてそう思いました。

○委員 そういう意味では、私が増やさないのは、そういう答えだし、1対1だと子どもって、また違いますよね。落ち着き感が違う。

○委員 それの逆なことで、本当に困っていて、申し訳ないと思っていると入ってきづらいというのはない？ 何か触媒を与えてあげないと、なかなか来ないですよ。

○委員 それはありますよね。なので、何かきっかけがあると。

○委員 きっかけで誰かが誘ってあげるとか。

○委員 それはあると思います。なので、本当は地域まつりとか、そういうのにふらふらっと出向いて行って様子を見て、あと思った子に声をかけたり、親御さんに声をかけたり、こういうことをやっているのとチラシを配ったりという、そういうフラットなところでぶらっと一本釣りしてくるのが本当は一番いいんだと思います。

○委員 本当に来られない、来るのがちょっとはばかれるという親子をどういうふうにして誘うか。

○委員 本当にぶらぶらしてとか、毎朝街角に立ってみるとか、夕方公園で座って見るとか、そうすると多分見えてくる景色があるんだと思うんですけども、なかなか私もそこまでできないので。

○委員 1回来て、そういう楽しさ、雰囲気味わうと、また来るんでしょうけれども、なかなかそのきっかけがね。

○委員 学校に行き渋っていた子が、初めに来たときにはお母さんの後ろに隠れていたんですけど、帰るころには、そんなに走っちゃ駄目みたいな感じで、「子ども食堂って食べる場所だけなのか」と、急に初めと終わりが違うような子もいたりする。

○委員 「メンバーの入れ替わりや新規メンバーのリクルート」、多分これはスタッフとい

う意味ですね。

○委員 スタッフであれば、その活動趣旨と自分の思いが合わなくなっていうところとか人間関係。

○委員 途中で辞める人はそれだと思います。人間関係で。

○委員 去るものは拒まずですか。

○委員 だと思います。なので、ずっとそこで対立が続いても去らない場合もあるかもしれない。

○委員 そうみたいです。

○委員 リクルートはどうするんですか。

○委員 そういう場合は第三者ですね。大学の先生とか社協の方とか、そういった立場のある人に来ていただいて外の空気を入れるということが、中だけの対立のときにはいいように思っています。

○議長 よく分からないんですけど、これは基本的に全部ボランティアなんですか。

○委員 そうですね。基本的に子ども食堂の活動はボランティアです。

○委員 例えば少人数のほうがいいというのは今で大体分かったじゃないですか。子どもにとっては少人数のほうが落ち着ける。学校みたいな大人数じゃないほうがいいというのがあるじゃないですか。月に2回、この子ども食堂があったとして、もし対立して分裂して、もう一つの子ども食堂が別の日にやるとかというふうに分かれちゃえばいいんじゃないですか。

○委員 いいと思うんですけど、なかなか代表をやる人が出てこない。代表というのが、多分ちょっと面倒くさい。お金をもらわずに自前で全部やるならいいんですけど、いろいろな補助金をもらったりとか、そして意見を言えばいい立場から、今度は受ける立場になってくると、じゃ、どうぞと言ったときに、次を立ち上げるというところは、なかなかそれは聞かないかな。私が前にいたところを出て次の活動を始めるに当たっても、前の活動を私が抜けても事務局の人も副代表もいて、きちんと運営していかれるということがあったので、抜けて新しい活動を始めた。

○委員 じゃ、そのエキスパートの人がその組織を育てて渡り歩く。また次のところに行くとか。

○委員 そうですね。今も若い方が、いずれ子ども食堂をやりたいと言っているのだから、ある程度形がついたら代表をしてみたいと思うならという話もしたり、なので、

そういう循環は確かにそうですね。

○委員 そのほうが現実的にはよさそう。

○委員 そうすると、また違うところでちょっとずつ、ちょっとずつと広がっていく。

○委員 少しずつ小さいのが増えていくほうがいいのかなと思います。

○委員 横のつながりはあるんですか。

○委員 横のつながりは社協さんがやっている子ども食堂運営会議というのがあって、そこで知り合って、僕辞めるけど、後をしてくれない？というようなことがあったり、そこで働いているスタッフの方と懇意になって、また違う……。

○委員 定期的なそういう協議会みたいな会があるわけですか。

○委員 保健所で年2回あって。

○委員 それは情報交換とか。

○委員 交換というよりは、お金が出るときは来てくれるんですけども、ただの情報交換というと、皆さんお忙しいのでなかなか集まらなくて、来るメンバーは二、三人なので、そこで仲よくなるみたいな感じですかね。あとは、新しい方が入ってくるときには、そこに必ずお見えになる。

○委員 食堂間の人材の交流はあるんですか。

○委員 あとは、この間あったような「居場所サミット」を外部でやったところに自分たちが出向くとかというので、ほとんどもう自分がどう動くかという感じなので、今のこの食堂だけでいいといえ、そんなふうに全然出ていかなくて、その活動を月2回だけをやっているという方もいらっしゃると思う。

○委員 メンバーの入れ替わりはそんなにないけれども、辞めていく方もいれば、新しく入ってくる方もいる。

○委員 お引越したったりいろんな御家庭の事情があるので。

○委員 新しく入ってくる方は大体ロコミが多いのですか。

○委員 ロコミだったり知り合いだったりですかね。なので、最初のコアのメンバーをどう集めるかというのは、確かにあるかもしれないですね。

○委員 コアのメンバーですね。

○議長 やりたいと思ったときに子ども食堂をやろうというハードルは高いんですか、そんなに高くないものなんですか。

○委員 定期的いきちんとやろうと思うと、始めるからには、やめないでというのが、こ

ういう活動のセオリーとしてあると思うので、始めることには何もないですね。自分の家でやってもいいですし、場所と作り手があれば、特に保健所の申請が必要とか、法的な決まりがあるとかもないですし、無料、もしくは低額で食事を提供するというのが子ども食堂の定義といえ定義で、その程度しかないので、誰でもあしたから始めますと言って、御飯を作って待っているからねと言ってすれば、もう子ども食堂という感じはあります。そこに来ってもらうには信用とか安心とか安全をどう担保していくかとか、そんなことも考えずにやっている方もいるかな。どうなんですかね。そこに必要な子がいるから、その子のためにやるというのもありだとは思いますが。前やっていたところも、ほぼほぼ2人のためにやっていたくらいの感じでしたけど、4年やってずっと関わる中で、本当にこの活動をやっていてよかったなという思いが、いろいろなことがある中で感じられるのも、こういった活動のよさです。

○委員 1人のためにやって、1人でもやりますよね。

○委員 1人のためでもやりますね。

○委員 これがゼロになったときには？

○委員 ゼロになって半年以上誰も来なかったらやめようと話しています。一、二回はゼロでも、半年本当に来なくていろんな手も尽くしたけど来ないなら、もうここにはこの活動は必要ないのかなということです。

○委員 来ないから子どもをリクルートするということは、そこまでそういう気持ちは？

○委員 さっき言ったように、公園で座ってみるとか、毎朝一定のところに立ってみるとか、定点でずっと観察していて、きっと必要な子は見えてくるんじゃないかなという肌感覚はすごくある。もしくは学校に行って御相談したり、あとは地域で本当はないのかというのを口コミですかね。

○議長 声をかけたり口コミなんですか。ポスターを貼ってというんじゃないんですか。

○委員 一応自治会には貼ってもらっています。

○議長 それで来る人はいない。

○委員 いないですね。本当に路面店で、今こんなことをやっているというのが見えれば、多分来てくれると思いますね。通りがかりで見ながら、「ちょっと」と言って入ってきてくれるというのはあると思います。

○委員 語弊があるけれども、趣旨からいえば、来なくなったほうが本当は理想なんですよ。

○委員 本当はそうです。

○委員 必要としていないほうがね。

○委員 ただ、それは現実的じゃないけれども、現実的には本当に困っている子は数人なんだろうけれども。

○委員 あとは、今、共働きで子どもの食事の時間が遅くなるということに、親としてすごく心を痛めている親御さんがすごく多い。急いで作るから、チンしたり、買ってきただけのものを出しちゃったりということもあるので、こういったゆっくり団らんで食べるということを経験させたいんだというニーズもある。

○委員 孤食とか、そういうのがあるからね。

○委員 ありますね。

○委員 100円ですか。

○委員 今は子どもは、ただです。子どもって思ったよりもデリケートで、新しい場所で知らない人の中で、なおかつ食事を食べるのはすごくハードルが高いんですよね。だから、本当は友達なり、大人なり、初めはお母さんと一緒なり、誰か知っている人がいないと、すごく大変な作業ですよ。

○委員 そう思います。

○委員 私たちでも知らない人と知らない場所でいきなり御飯を食べてこいと言われてたらと思うと……。なので、子どもの気持ちを思うと……。

○委員 大人は有料ですよ。

○委員 保護者は一応300円頂いています。

○議長 それでペイするんですか。それぐらいの額はあえて。

○委員 大人は頂いていて、本当に大変そうなときには、様子を見て。

○議長 助成金か何かがあるからできているんですか。

○委員 できていますね。あと御寄附を頂いたりということがあってできています。

○委員 300円じゃなくて1000円置いていくよという方もいたり、そんなことはない。

○委員 それはないですね。ただ、前やっていたときに、本当ににぎわいの中で子どもに御飯を食べさせたいというお母さんが、5年生から塾に行って、もうこの時間は来られなくなるので、今までありがとうございましたと言って包んできてくださった方はいます。そういうことだったり、あとは全く関係なく、自分が子どもの頃、地域の人にお世話になって、今こうやって収入を得てできる立場になっているのでと言って、大人になった方が

結構な額を入れていってくださったり、御寄附を下さったりということがあって、そういうのは路面店でやっているよさで、しばらく様子を見ながら、この活動だったら寄附しよう、貢献したいと思ってくださる方が現れるというのは、見えるところでやっているよさで、今はどっちも奥まってしまっているの、そういう関係性はつくりづらいかな。

○委員 委員は何年やっているんですか。

○委員 7年ですかね。

○委員 7年、同じ子ども食堂。

○委員 いえ。最初の子どもの食堂で4年やり、あと、立ち上げてそこからですかね。松原は今始めたばかりです。

○委員 今のところ、同じところは4年が最高。

○委員 そうですかね。

○委員 持続をするということもあるけれども。

○委員 活動の持続と人の持続は違うと思っています。前やっていた子どもの食堂は、食事は提供できていませんが、今も活動は続いていますし、今度立ち上げた松原も、代表は替わって名前も変わりましたが、松原の地域で子ども食堂ということでの活動は私はつながっているという意識でいるので、何をもって継続かというのは捉え方です。

○委員 その活動が4年で終わったとしても、人の持続はしているということですね。

○委員 しているということなので、団体の活動としては続いています。なので、会社もそうですよね。社長が替わっても会社は続いている。

○委員 地域として人間関係はそのまま残っているということですよ。

○委員 前の活動でいえば、私が抜けたことで、また違った風が吹いているかもしれないというようなことはあるのかなと思うので、必ずしも固定でずっとがいいのかというのはあるかもしれない。

○委員 今の人の持続にしても地域の持続にしても、コアの方でなければいけないということじゃないんだけど、1人でなくてもいいんだけど、現実問題としては。

○委員 コアのメンバーはそうですね。代表という、そののところをやるという人がいないと始まらないのと、私が最初に誘われてやったのは、事務局をやるから代表をやってというスタイルだったんですね。事務局の人が地域活動のプロだったということから、教えてもらったということはあると思うので、やっぱり継承。前任者が人を育てるというのは大げさなんですけれども、そういう形でなぜかスイッチが入って始まっちゃったという感

じです。それにはいろいろな出会いがあるということです。

○議長 今7年とおっしゃったんですけれども、その前に子ども食堂以外にこういう感じの活動はされていたんですか。

○委員 全然なくて、介護をずっとしておりまして、そこでいろんな方にとってもお世話になったので、やっぱり何らかの形で恩返しをしたいという、その1点だったので、たまたま子ども食堂だったということなので、誰かに声をかけられてということなので、初めから自分でこれをやるんだということではない。

○議長 もしかしたら子ども食堂でなかったかもしれない。

○委員 かもしれないです。私は介護が一段落したら、どこかでお仕事をして収入を得ることをやりたいと思っていたのが、まさかという感じですね。

○委員 今後の活動において「挑戦したいこと」は何かありますか。

○委員 逆にそういうことも持たずに流れに乗ったり、こういう場でこうやって皆さんにお会いできて、いろいろな立場の御意見をいただきながらいられること。

○委員 限界もあるんでしょうけれども、例えばもうちょっと増やしたいとか。

○委員 そういった意味では、小さい子ども食堂がね。

○委員 小さい機能がいいかなと私も考え直しましたね。

○委員 そういったことでも運営できるような何か形を作るのは……。

○委員 やってみたいと思っている人はいっぱいいるかもしれないので、こういうふうにとできるよというのを伝える役で、さっき人材育成みたいな話がありましたけど、小さくやったほうがいいんだよという経験者からの話もいいんだと、今聞いていて思いました。

〔グループB〕

○副議長 今日はグループワークということで、先ほど議長から説明があったように、持続可能な地域の活動のために何が必要なのかということを明確化と共有化することということで、こういうグループワークを行うことを企画しております。

まず、委員から、子どもぶんか村の取組について、皆さんのお手元にある資料3の検討事項の部分、「活動がうまくいっている要因」とかを中心に、まずは情報提供していただきたいと思います。

○委員 一応参考というか、お話を聞いていただくのに、これを用意してきました。これ

はこの間、夏休み直前に出した「子どもぶんか村だより」です。「子どもぶんか村だより」は、昔は毎月刷っていましたが。

○委員 132号までいっているんですか。

○副議長 すごいですね。

○委員 毎月出していたんですけれども、みんな紙ベースじゃなくなっちゃったので、みんな通信でやっているから要らないんですけど、そしたら地域の人から、最近コロナでぶんか村はやらなくなっちゃったのと言われちゃったから、そうだと、やっぱりこういうのは学期に1回ぐらい刷って回覧板に載せて地域の人に見ていただかないと、やっていないと思われると思うので、子どもたちの写真も入れながら、3回ぐらいは出そうかと。あと、この間配りましたものは、年に1回、報告書として出すんですけど、そんなこともしています。この「くらぶ」が20年ぐらい続いてきたというところを事務局が、そういうふうに言ってくださったんだと思うんですけど、何で続いてきたのか。

○副議長 本当にそうですよね。20年はすごいですよね。その20年続いてきた要因について、ぜひ伺いできれば。何が20年も続いた理由ですか。

○委員 私たちは20年やろうと思ってやっていないじゃないですか。今年どうする？ 来年どうする？ということなので、すごく長く続くとも最初は思わなかったし、批判的な方ももちろん委員の中にはいらっしゃるし、こんなことをただでやる意味がないんじゃないか、お給料をもらっていただければいいけど、こんなことを地域で、ただでやることかしらといってお辞めになっていった方もいらっしゃる。だから、淘汰されて、今子どもたちを地域で育てるって大事だよねと思った人たちが残ったということなんだと思います。

○委員 大変失礼なんですけど、立ち上げたときの年代は、お幾つぐらいでしょうか。20年続くということは。

○委員 私40代でしたね。

○委員 ということは、お子さんが小学校卒業、中学ぐらいのときにこういうものを立ち上げた。

○委員 そうですね。中学生ぐらいですね。深沢のコミュニティーを参考に見学に行きましたよ。地域でこんなことをやっているところがあるんだってよと、あのとき、うちの校長と仲よしで。だから、行こうなんて言って。

○委員 そうすると、現役のPTAの皆さんが小学校を卒業して中学生ぐらいのお母さん世代の方がほかの地域を見て立ち上げてみようがスタートになっている。

○委員 地区委員会がやりましょう、私たちもあんなのやりたいよねと言って、でも、やる、やらない、こんな大変なことをするのとか、そこで最初はもめますよね。でも、こんな「くらぶ」があったらいいよね、こんな「くらぶ」もいいよねとか、夢もどんどん膨らんでいく人と、ちょっと引いていく人と、そこで温度差はあったと思う。ただ、最初は嫌だと思っていた人も、何か楽しいとか、子どもたちが楽しそうにしているとか、そういうのは感じてくださると、もうちょっとやってみようかなという気持ちにはなってくさったと思います。

○委員 そうすると、立ち上げのときには、もっと上のOBの方々も取り込んだ。

○委員 取り込まないですね。OBの人たちはみんな、やめとけ、やめとけ、仕事じゃないんだからと言って、やめろというほうが多いです。

○委員 子どもたちが同世代の保護者と少しOBぐらいの方が立ち上げて、それを大事に育ててきて今がある。

○委員 青少年委員さんとか、そういう人たちの力もあると思います。船橋地区委員会というのは、学校は4つあるので、校長先生が4人、理事になっていただいているので、そのほかに「くらぶ」ごとに全部代表がいるので、その人たちが理事に入っています。

それと、研修と環境整備が両輪だということがうちの特徴としてあって、ぶんか村は子どもたちの実践現場という取扱い方で、それを支えるためにちゃんと研修を積まなければいけないよねと、研修は年間七、八回はやっているんじゃないかな。

○委員 大人の研修ということですね。

○委員 そうです。大人だけ、それは子どもがいない研修です。地域研修とか、中学生に研修をプレゼントするというのもやっているし、その研修委員会の在り方も、例えば、私はあの有名な人を知っているから、あの先生にお願いしましょうよとか、そうやって安易にやればいいということじゃなくて、私たちは子育てで何を悩んでいるんだろう、私たちはもうおばあさんになっちゃったけど、今の人たちはどういうことが不安なのというのを、意見交換しながらじっくり取り組んでいくんですね。じゃあ今年の研修テーマは社会貢献の話をしてもらおうかみたいにして決まっていく。その研修を大切にしているというのが1つうまくいっている。研修で子どもの持っている課題に気がついて実践に生かしていくということのやり取りがあるので、そこのところもみんなはすごく意識していますね。PTAから出てくる方は、ぶんか村もやらなきゃいけない、研修もやらなきゃいけないという負担があまりにも多いので、研修をする人、ぶんか村をやる人と分けて、担当を分類

しようとなさる。もちろんそれでもいいんですけど、私たちは両輪なんですということは最初にお伝えするんです。やっぱり机の上で理論だけ、そんなことばかりやっていても駄目だし、子どもがかわいかわい子どもをかわいがればいいということでもないし、やっぱり両輪でやっているんだよねというところは御理解いただいてやっていただくと、たまに、私、ぶんか村担当だけど研修もやってみたいですよと言ってくださる方が来たりとか、PTAはもう今年で終わりなんだけど、この研修はもうちょっと残らせてくださいという方がいらっしゃったり、そういうふうにして続いていっています。

○副議長 PTAとのつながりというところも。

○委員 すごく大事です。PTAの人は言わなくても必ず来てくれる人たちですよ。地区委員会に2名出しなさいと言われていたと思うんですね。だから、必ず漏れなくいらっしゃる。2人では大変だから4人ぐらいで来るわという学校もあるし、全部取り込むと五、六十人になって、その人たちの中でも、ほとんど来られない方もいらっしゃいますけど、はまってという言い方は変かもしれないけど、すごく面白いと言ってくださる方を見いだすことができる。そういう人がいれば、しめたもんじゃないですか。1年で1人でも、20年やっていれば20人だから、1人でいいんだけど、そんなに血眼になって人材を探すとかじゃなくても、やっていくうちに、やってよかったとか、もっとやりたいという人が見つけられればいい。

○副議長 ある意味、PTAとのつながりで、さらに大切にしている研修と環境整備ですか。研修というのは主に理論というか、なぜこれが必要なのかとか、そういうのを学ぶための研修会で、環境整備というのが「くらぶ」の運営ですか。

○委員 環境整備というのは地域の町会の人たちとの懇親会です。あそこに信号がなくて危ないんだけどと言ったら、よっしゃ、うちの町会でも言ってやるよといって信号がついたりとか、何とかマップを作りますと学校の人が言うと、じゃ、協力しようとか、町会のお祭りの手伝いをどうするかとか、そんなことです。町会の人たちもすごく重要なので、町会とPTAのつながりがそこにあるという感じですかね。

○副議長 もう一度確認したいんですけども、さっきのPTAの役割分担というのは、研修を担当するというか、研修に行く人間と子どもぶんか村の何かしら協力するという形ですか。

○委員 ものづくりくらぶだったら、私はものづくりが得意だからやってあげてもいいわよとか、あるいは、うちの子が茶道をやりたいと言うから茶道くらぶの委員なら引き受け

ますとか、それでP T A活動が1回ということになれば、ちょっとラッキー。自分の子どもの稽古事に付き合っ、その世話役をやればP T A活動を1回したということになるから大歓迎。

○委員 P T Aは学校から役割として派遣されてくるというか、その年1年間の担当で地区委員会の担当をされるんですよね。

○委員 そうです。

○委員 どうせだったら自分のやりたいものがやりたい。

○委員 やりたいし、子どもがやっているものがあるので、やりますと手を挙げてくれるみたいです。みんな、やりたくないわということじゃなくて、やりますと言ってくれるみたいです。

○副議長 その中で興味を持った人は研修もというふうに手を挙げて参加しますという形でつながっていくという感じですね。

○委員 以前は担当が2人と決まっていたら、2人で来られて役割とかも決まっていたんでしょうけど、今は1人分の分量をどんどん軽くしよう、なるべく負担を少なくしようというP T Aの流れから、2人のところを4人で来たら、やることは1人分が半分になるんじゃないのみたいなことで人数がちょっと多く来たりするんですよね。

○委員 そうです。

○副議長 なるほど。それで人数をわざわざ多く、2名でいいけれども、4名出してくれるところもあると。

○委員 皆さんやっぱりお忙しい方が多くなっているんで、1人の人にあれとこれとこれをお願いといっても、そんなには無理と全部拒否するわけではないでしょうけれども、半分ならできるんだったら、もう1人連れてくればいいというお考えの方も中にはいらっしゃるようですね。

○委員 でも、そういう係は、やりたくないことをやる場合ですよね。やりたいことをやるときは、やりますとなるのね。

○委員 そうなんですよ。負担に思っていたりとかというときですね。

○委員 こんなこと何で必要なのということをやらなきゃいけないと言われたときは、半分ぐらいでいいわねとなるんですけど、子どもがやりたいと言っているから、やりましょうよと言ってやるので。

○委員 これは、各クラスから担当者を最低1人出すとか、そんな感じなんですか。そう

ではない。

○委員 委員会とかの中から地区委員会に2人行ってくださいとか、そんな感じです。学校から何十人もという感じではないですね。

○委員 違います。学校から2人とか4人とか。

○委員 うちも2人ぐらいだと思います。

○委員 中学校になると2つ地区委員会を持っていたりしますね。

○委員 そうですね。学区域が広がるので。

○委員 こっちの地区委員会とこっちの地区委員会と両方に行かなきゃいけないから。

○委員 小学校は1つ？

○委員 小学校は3つあります。希望丘小、船小、千歳台小。

○副議長 学舎にぶら下がっている中学校もあります。

○委員 中学校が1校、船橋希望中学。うちは1校だからいいんですけど、前は船橋中学校は祖師谷もこっちも抱えていたから、そういうのはちゃんと区割りがしてあるほうがいいですとお願いしたことがありました。川崎みたいに中学校区というふうに行政と学校区が一緒だといいのにとったこともあります。

○委員 学区域と町会の分かれ方が違いますもんね。

○委員 そうなんです。

○委員 これはどこかの小なり中なりの会場を根城にしてやっているんですか。

○委員 3つ、4つを満遍なくやっています。演劇クラブは、今、千歳台小学校が多いですけど、そうじゃないところは船橋希望中でないとオケはできないので、楽器がそろっていないので、オケは中学校でさせてくださいとお願いしていますが、コーラスは希望丘小かな。

○副議長 じゃ、その4つの学校というか、船橋希望中と下の小学校3校が活動場所になっているという感じなんですね。

○委員 そうです。ただ、コロナになったので、リモートでしなくちゃいけないといったときはまちづくりセンターをスタジオのようにして、まちづくりセンターにライトを入れたり、マイクを入れたりしながら、カメラも3カメぐらい要るよねとかいって、自分たちでタブレットを立てて3カメでスイッチャーとかいって、そういうことを楽しくてやるんですよ。だから、みんなどんどん上手になる。

○委員 そう、活躍する人がいて、だから、やる気になるというか、こんなふうやって

くれる人がいるなら、私も頑張るみたいになっていくので、でも、全然知らなかった人も腕を上げていたりとか、「私ははっきり言ってコロナのときは、もう家から出たくありません。こんなことを仕事でもないのにやる筋合いはありません」と言っていた方もいらしたんですけど、「じゃ、いいよ、おうちでできることをやって」と言ったら、Z o o mのホストをやりますとか、だんだんそういうふうになるようになって、みんなで、すごーい。

○委員 どっかに魅力はあるんでしょうね。

○委員 その代わり何とかのマイクを買ってくださいとか、集音マイクだとか、スピーカーとか、モニターとか、結構お金がかかりました。コードが足りないとか何とかと言いながら上質なものを求めていくから。

○委員 基本的に子どもたちが純粋で、飛び込んでどんどん成長していくのを見て、担当する親としても引き込まれていくんでしょうね。

○委員 そうですね。若い人たちもすごく力がありますよね。

○副議長 現在、このぶんか村を支えているメンバーは、人数としては大体どれぐらいいらっしゃるんですか。

○委員 理事が12人なんですね。その人たちが核にはなるんです。でも、その人たちはP T Aの会長をしていたり、青少年委員だったりとか、自分たちの組織をバックに持っているんです。なので、そこにまた広がっていくので、すごい数になる。

○副議長 核になるスタッフ自体が12名ぐらいはいるということですね。

○委員 そうです。「くらぶ」ごとにいるので。

○委員 その12名の理事さんが元P T Aの会長ですとか、地域のいろんな人。

○委員 そうです。現役の会長もいます。

○委員 ですから、声をかけると情報を得るベースが整っている。

○委員 情報共有も、今はS N Sを使うので、今日の議事録もばーんに行っちゃうし、今日はこんなことを話し合って、こんなことを決めて、こんなふうになりそうだよ、今日はふれあいまつりという町会がやっていた地域のお祭りが中止になっちゃって、じゃ、どうするという話をしたときに、地区委員会をやるしかないよねとかとなって、やる一みたいな感じで、本当にみんなやるの、こんなこともこんなこともやっているのと思うんですけど、でも、うちが立たないとまちづくりセンターが事務局として動いてもらえない。ただの有志の集まりになっちゃうと動いてもらえないよねとなって、そうすると、せっかくだったらやろうかみたいな。

○副議長 その理事の人たちプラスアルファで子どもぶんか村が成り立っているということですね。

○委員 そうです。講師の人たちもいるし。

○委員 まちづくりセンターさんというのは、どういう絡みがあるんですか。

○委員 地区委員会はまちづくりセンターで1本です。だから、地区委員会の事務局はまちづくりセンターさんです。うちは船橋まちづくりセンターです。

○委員 まちづくりセンターの事業として地区委員会があると考えていただくと、事務局機能と言ったらいいですかね。

○委員 それが発展してぶんか村ができて今ある。捉え方として、第三者に説明するのは、母体が地区委員会で、その中が同率でぶんか村が育ってきているんだという捉え方。

○委員 地区委員会がやっている事業の1つとしてぶんか村があり、環境整備部があり、研修部がある。そこそこは両輪ですよ。

○委員 羨ましいぐらいで、今日も地区委員会をやっているんですが、信じられないですね。

○委員 私も青少年委員をやっているときには、最初は住まいが新代田地区委員会に入っていたんですけども、学校が統合で移転しまして、同じ青少年委員の間に北沢の地区委員会に替わったので、私は2つの地区委員会を見てきたんですけども、ぶんか村の活動が地区委員会の活動の一環というのが、本当にちょっとすごいなと思います。

○委員 でも、地区委員会でしかできないと思う。ほかのところはできない。

○委員 20年前にその捉え方ができたというのはすごい。

○委員 そうすると学校も町会さんも協力してくれるんですよ。すごくいいじゃないですか。

○委員 私が青少年委員になる前は町会で防災部長をやっているんで、それで入っていた。青少年委員になったので、今度は町会を離れて青少年委員になっているんですが、地元の人といいますと、20年前だったら皆さん若かったんでしょうけれども、PTAの方々は毎年来られます。ただ、毎年替わっていますので、引継ぎがすごく大変です。それも行政の方が細かく資料を作っても、やはり実際に携わっていないとなかなか伝達できない。地区委員会は町会単位でいますからずっとやられているんです。地区委員会の町会単位ではずっといるんですけども、もういい年になってきました。

○委員 それが実は大事なんです。地区委員の決め方を私たちは決めました。町会連合会

から2人とか、町会が推薦する委員の人2人とか、そうすると、今度は若い人が来る。

○委員 町会自体が若くなくなってきましたから。

○委員 選ぶ人たちは偉い人たちがいますけど、委員になるのは若い人たちにやってもらう。

○委員 だから、やはり魅力的な地域で、町会自体が高齢化しちゃっているんで、青少年といっても誰と。

○委員 地区委員会に年齢制限というか定年制を設けているところもあります。やっぱりあまり高齢化すると。

○副議長 この理事12名のうちずっと継続されている方は何名ぐらいいらっしゃるんですか。

○委員 半分ぐらいは残っています。

○副議長 何が違うんですかね。

○委員 20年続いているというお話で、20年前、船橋中と希望中が一緒になったあたりなんです。

○委員 それよりも前です。船橋希望中はまだ10周年なので、まだ船中、希望中があった頃です。

○委員 その辺の統廃合のあたりでうまくいかなかったりということもなかったわけですね。

○委員 統廃合のところでもうまくいかなかったりも、委員の中ではそういうことではないですけど、やめたほうがいいと反対をする人たちがいましたから、それはそれで、あそこまで争う必要があったのかなというのは、いまだにしこりが残ってしまっているんで、小規模校が賛成だという人と統合が必要だというところが、統廃合だということで傷を残したのはすごくもったいなかったなと私は捉えています。

○委員 時代背景として20年前といいますと、学校が5日制になって、土曜日をどうするかでこういうのも1つの意味ですよ。

○委員 週5日制になった頃のタイミングです。校長先生たちから、こんなクラブ活動ができるのは町会でもないし、民生委員会でもなくて地区委員会かなという感じだったんだと思います。

○委員 それに保護者の方々が乗って発案して魅力的に今でも続いている。我々がまだ現役で、子どもたちもちょうど20年前に小学校へ入ったぐらいで週5日制になったぐらいの

ときに、土曜日をどう使うかという、塾へ行く子もいて、全国区になった進学校はたくさんあるじゃないですか。土曜日はうちに預けなさい、受験勉強しましょうという子と、そういうところへ行かれないときにどうしよう。そうするとやはりBOP、学童クラブというのはだんだん力を入れてきた。それが2つになった。

○副議長 学校5日制は正式には2002年度からですね。

○委員 そうです。

○副議長 その頃をきっかけに、最初、学校からそういう問題提起というか、土曜日どうしようかということがあったのですか。

○委員 そうですね。そのときの先生が、やらないかと言われて、その頃の地区委員会の会長はボスみたいな町会の方だったので、やりましょうという鶴の一声というか、民主主義が何なのかじゃなくて、私がやるって言ったらやるわよみたいな感じがありがたかったときでもありますよね。がたがた言わないのなんて言っちゃって。

○副議長 それで継続できる。じゃ、やりましょうというふうになったわけですね。

○委員 私たちは深沢に行って知っているの、いいよ一みたいなことは吹き込んで言っていたので、だから会長も、だったらやろうかと。

○副議長 事例を見て学んで、その人たちがほかにも何名かいたと。核になる人がそれだけいたということですね。

○委員 そうですね。

○委員 20年続いたのは人かもしれませんね。やる人がいないと続いてこないし、同じ人がずっとというのも大事でしょうけど、そこにどんどん新しい人が入ってきて。

○委員 PTAからは毎年新しい人が必ず来るんですね。

○副議長 その人から今度は、面白いから残ってやってみようかなとか。

○委員 残るという人たちがいてくれる。

○副議長 そういう意味ではPTAとのつながりがすごく大切ですね。

○委員 PTAは大事です。

○副議長 先ほど何でこんなにうまくいっているのかとおっしゃっていましたが、それは普通の地区委員ではないことなんですね。

○委員 やはり青少年地区委員というのは、基本的に地元の人たちにとっては町会に入っている方々が町会の会員の中から町会の推薦を得て青少年地区委員になるんです。今、町会問題がありまして高齢化が進んでおりまして、かなり昔から若い人はなかなか入らない。

40代、50代の町会の人はいなくて、60を過ぎて、1回定年を終えて、まだ働いていますけれども、時間的に余裕があるので、町会に誘われて、じゃ、入るかという形で、今は町会に自分から進んで入るという方はなかなかいないのも事実なんで、欠員が出てしまう。しようがないなと入るという形はどこも一緒だと思うんですけども、そうすると、どうしても60代以上になってしまいます。60代以上の方が青少年地区委員になってくださって、結構高齢の方で、今日もレクリエーション部会がありまして、8月の末に支所の会館で映画会をやろう。そのときも高齢化の人ばかりで、やはりコロナで子どもの感染が多いので、そのときにPTAの方々に来ていただくと本当に動いていただける。けども、子どもの感染率が多いと、本当にやっていいんですかとPTAの中でも話が出る。私はレクリエーション部会長だったものですから、実際にせたがやふるさと区民まつりが、この金、土、5、6日でありますけれども、行政としては、国としても、東京都、世田谷区としてもゴーがかかっておりまして、中止ということはあり得ないということで実行します。やるに当たっては人数制限をしたり、コロナ対策、アルコール消毒も密にやっていますので安心していただいて、あと熱中症もありますから、そういうことも対策をして実行します。あと、アドベンチャーin多摩川いかだ下り大会が8月28日日曜日、最終週ですが、それもやる方向で今動いております。いかだの数は申し訳ないのですが抽選制にして40艇で時間短。今まではお昼を食べて表彰式だったのですが、お昼を食べないで、終わったらすぐ退場。1時までにはきれいにしてしまうという形で、炎天下で熱中症対策はしっかりやり、コロナ対策はしっかりして実施しますからということで、今日来たPTAの役員の方々にはお話しさせていただきました。そしたら、PTAの中にも、子どもたちに何か体験させたい、3年も映画会もなく、すごくつらい、何か地元で、ましてきれいな支所が新築したばかりで、こけら落としみたいな感じで、もう3年ぐらいたつんですけども、全然できなかったものですから、ぜひ子どもたちにも中で映画を見させたい、入ったことがないので、まずそういう会館の中に入れさせたいという意見もありまして、その意見が広がりまして、PTAの方もお手伝いしますと。やはり今は本当に難しい。ちょっと話が飛んじやいましたけれども、そういうやり方です。

○副議長　そういう方が、今度は地区委員とかになってくれるといいわけですよ。

○委員　やっていただいて、興味を持っていただいて。

○委員　ほかの地域の方が、「いいですね、おたくの地区委員会は。うちの地区委員会もそんなだったら、私だって地区委員になる」って言われるもん。

○委員 それで、今お話ししたとおりちょっと問題になっているのは、P T Aがそれで終わっちゃうんです。なかなか町会に入る若い方もいない。

○委員 うちはP T Aの人は町会に入っている。その後、町会長から気に入られて引き抜きされて、町会の役員になっている。

○委員 町会とP T Aがすごく仲よく交流できているというのは、おかしいなと思ったら、やっぱりそういうこと。要は町会の会員になってください。

○委員 声かけですね。

○副議長 それこそリクルートしないと駄目なんですね。

○委員 町会に入れば、P T Aが終わったとしても、若い方は経験者ですから、こういう子ども対象のぶんか村に対しては確実に実践第1号として動いていただけます。

○副議長 これはある意味チャンスですよ。これをやりたいんだけど、じゃ、一緒に協力してやろうよ、次回は町会に入って、もっと楽しいことをやってみない？というのでリクルートする。

○委員 ちょっと先のことをやらないと駄目なんですね。そうやって仕掛けていくと、それ何？というのから始まって、みんながやってくれるようになる。町会長から電話がかかってきて、コロナでうちは全部中止になっちゃったから、何かやっていることがあったら教えてとか1週間ぐらい前に言われた。

○委員 その交流ですよ。どうも町会長は閉鎖的になっちゃって、うちもたくさん町会があるんですよ。メインになるのが3町会で、それはもう戦前からあるような町会が3町会で仕切っちゃっているといいますか、そうするとなかなか古くさい体質であり、かといって焦っている割には高齢化が進んでしまう。

○委員 私が去年、おとしやっていました地区委員会なんですけれども、ほぼほぼ行事としては何もできなかった2年間ではあったんですが、地区委員会の活動としては、春の野外活動とか冬の野外活動といって動物園へ行ったり、水族館へ行ったり、冬はみんなでスケートに連れていこうみたいなイベントが考えられて、毎年計画はちゃんと立って実行してきたんですが、ぶんか村みたいに継続性がないから単発というんですかね。来年もやろう、今年もやろうとなるんですけど、それが1個ずつなんです。

○副議長 単発の事業は継続しているという感じなんですね。

○委員 そうなんです。大きなお祭りがあって、そこに地区委員会から子ども向けのスタンプラリーを出して、それも活動の一つなんですけど、それも、まつりがあるから、そこ

に乗っかるとか、そういう形なんですね。自分たちでこういうことを子どもたちのためにやってみよう、それを継続していこうというまでは、ちょっと形が違うなと思ってお話を伺っていました。

○委員 それが面白いとなるとやるんじゃないかと思います。

○副議長 その場合の担い手はどうですか。担い手というか、単発の事業にしても、メンバーですかね。

○委員 一つ一つの事業に責任者というか委員長みたいな形で決めてはやるんですけれども、メンバーとしてはマンネリ化しているというか。

○副議長 ほぼ固定化。

○委員 そうですね。そこにさっきおっしゃったようなPTAでちょっとやる気のある方が来てくれると、その委員会はちょっと活発になって、その方が小学校から出てきて、次の年は中学校から出てきてみたいに何年か関わってくださると、その方は地区委員会の中に残ってくださる。最終的には青少年委員になってということですずっと継続していく方もいらっしゃる。若い人を連れてくるには、PTAの関係からじゃないと難しいかなというのはありますね。

○副議長 やっぱりPTAですね。そこから町会に入ってもらい、地区委員になってもらい。

○委員 私たちはリモートでやって、限界があるなというのも感じるし、子どもたちの声かけもできなくなっちゃって、どうするとなって、それでまた新しい事業を増やしちゃって、おやつステーションを始める。これをやって駄菓子と並べて2個いいよという、それだけです。それだけを週に二、三日、毎週やるんです。そうすると、子どもたちのいろんなものがまた見えてくるんです。なので、私は、町会で何をやったらいいのというのに、おやつステーションをお勧めしたんですけど、おやつステーションは楽しいよ。子どもたちは、ありがとうございますと言って帰ってくれるし、お菓子のラインアップが結構難しいんですね。子どもってもらったお菓子なら何でもいいということじゃないんです。いけるかっこいいお菓子を並べる、魅力的なお菓子を並べるというのが大事なんです。

○委員 やっていらっしゃる方がそれを楽しんでいますよね。

○委員 お話ししていて、楽しいよというオーラが出ている。

○委員 すごく面白いんですよ。子どもが喜んで、ぎゃーとか、うわーとか言ってくれるのが楽しいからおやつステーションを始めていて、都営住宅の集会場でやらせてもらった

りすると、またそことの関係もできてくる。

○委員 今、行事ですと飲食は絶対禁止。

○委員 そこで食べていないですよ。持って帰るんですよ。

○委員 袋詰めも駄目だって。

○委員 何とかゼリーとか。

○委員 それも駄目だって言われている。

○委員 個包装でも駄目ということですか。

○委員 駄目だって言っても、家に帰って食べなさいと言っても、子どもは食べちゃうでしょう。

○委員 公園の前なので、公園で食べます。その代わり、子どもたち、ごみ拾いなさいと言うとごみ拾いをしています。

○委員 小学校のイベントで、交流としてラムネを売っていたんですね。それも飲食で駄目だと言われて、ゲームのコーナーをやって、ゲームに景品をつけたい。お菓子が出ますと食べちゃうから駄目と。じゃ、どうしよう。缶バッジじゃないんですけれども、おもちゃの小さいものにする。ゲームでいい成績を出したら、今まではお菓子を景品にしていたんですよ。1点だったら1個、10点取ったら10個だったんですね。お菓子はいろんな種類を買ってきた。

○委員 お菓子10個はちょっと魅力ある。

○委員 そうすると、いろんな種類だから、いろんな種類があること自体、子どもたちは興奮しちゃうんですね。本当に笑顔なんですけれども、それも全部駄目だという話です。

○副議長 では、今、話を聞いた限りで、このプリントの資料3にある検討事項が5つあると思いますが、皆さんが今話を聞いていて感じたことを何か簡単に書いていきましょう。

○委員 課題はお金がない。資金をどうするかというのが課題です。おやつだって買ってくるのにただではない。最初は六、七人の子どもたちだったのに、口コミでどんどん広がっちゃって、今100人ぐらい来ちゃうから、1回3000円ぐらいはかかっちゃうので、そうすると、いつまで続けられるかしらとなっちゃう。

○副議長 今現在は活動費はどういうふうに工面しているんですか。

○委員 会場費は地区委員会の委託料で払ってもらっています。おやつ代は寄附金でぶんか村基金をつくったので、それでやっていますけど、それも底をついてきている。

○委員 例えばこれに参加する子が俗に言う年会費みたいなものはない。

○委員 各「くらぶ」ごとにあります。そこに書いてあるように、音楽くらぶが年会費4000円とか、1500円とかが多い。

○委員 でも、この「くらぶ」で集めたお金はその「くらぶ」で使われるわけでしょう。集めて全体で割るとか。

○委員 それはないです。講師の交通費、茶道だったら抹茶とお菓子代、いけ花だったらお花代になって、あと、音楽くらぶも楽器のメンテナンスとか、そういうことに使っている。

○委員 安価ですよ。安いですよ。

○委員 そう。

○委員 楽器を使うようなクラブとかってお金かかりますよね。

○委員 私たちは、どんな子どもでも体験させたいというのがあったので、すごく安い。安いからラッキーというお母さんたちがおいでになるので、ここはカルチャーセンターの幹旋をしているところではありませんと保護者会を開いて言うんですね。これは地域づくりです、子どもを通して地域をつくっていくんですということで御協力くださいと説明するんですけど。

○委員 お話を聞くとすごい刺激的だな。

○委員 でも、楽しそうじゃないですか。見に来てほしいですよ。みんながすごい。

あと、1人の人が駄目と言ったら駄目かじゃなくて、何でとなる。さっきお菓子を食べちゃいけないと言ったら、誰がそんなこと言ったの、何でと、多分私たちだとみんな反発するから、そういうことはみんなで決めましょうという民主主義というか、それは私たちはすごく根づいています。1人の人が何か言ったからといって全然変わらない。

○委員 言った人は校長先生なんですけど。

○委員 校長先生だったらもっと、なおさら。

○副議長 そういう意味で学校との関係というのはどういう感じですか。もともとは学校5日制のところから校長さんから始まったというわけですけど。

○委員 校長先生たちも地域で子どもを育てるということをかなり言われているので、ここを利用してくださるということもあるんですけど、校長先生が音楽の先生にちゃんとそれを伝えられているかというのと、そこのレベルになっていくと、今度はぎくしゃくしちゃって、何でぶんか村か、部活のほうが優先でしょうとか、それはもめます。そうすると校長先生は地域と音楽教員の板挟みになってちょっとかわいそうな感じがします。

○委員 でも、やっぱり任せて安心感があるんでしょうね。

○委員 安心感というか、先生も会議においでになります。

○委員 これは本当にすごいなと思います。スタートからしてそれを聞いちゃうと、面白いな。

○委員 それが不思議というか、普通にできたんですけど。

○委員 今の自分のところじゃないんですけど、過去にいた別の地域の学校で、近辺の健全育成の委員会は新陳代謝がなかなか進まないから、80代ぐらいの町会の人たちが一生懸命頑張っているんだけど、何年たってもその人たちしか見ていない。その人たちが小学生を連れてキャンプに行ったりとか、本当に申し訳ないという感じなんだけど、本当に新陳代謝が進まないというのは感じましたね。

○委員 私が前にいた地区委員会は、まちぐるみ運動会というのを毎年やっていて、町会の方の御意見が通るんですけど、町会の方がどんどん年を重ねられて、自分が動けなくなるとできることが減っていつてしまうんですね。これをやろうと言わなくなってしまう。どんどん縮小しちゃうような方向にあったりして、若い人の力が入ってこない、そういう行事も難しい。

○委員 そしたら、そのいるメンバーでできることをするという発想じゃなくて、これをしたいから、それができる人たちが集まってほしいというふうになっていくと、例えばリモートで何かやろうといったときに、そういう人たちがどんどん集まってきたりするじゃないですか。それでどんどんできるようになっていく。

○副議長 だから、やっぱりそのリクルートのところなんですよ。町会も含め、高齢化と固定化とリクルート、そのリクルートをどうやっているかです。先ほどの話だと、魅力的なことをやっていけば自然に入ってくる人もいるだろう。

○委員 面白がって来る人がいるから、これだったら自分の力を発揮できる。やっぱりみんな自分の力を発揮したいと思っているんですよ。だけど、ボーリング大会では、私じゃなくていいですよ、あなたたちやればみたいなことになっちゃうから、やりたいことをちゃんと打ち出していくと、それに合った人たちが集まってくれると思う。

○委員 そこがPTA活動と違うところじゃないですか。PTAは平等と言いながら一人一役で、しかも、それはやりたくないのに押し付けられちゃうから負担感ばかりですよ。だけど、ぶんか村のところだと、私これをやりたいということになっている。

○委員 やりたいからやる。うちの子、これ大好きなんですというのをやる。

○委員 意識が違いますよね。

○副議長 その声がけは、地区委員会の事業として子どもぶんか村があって、その理事の人たちがいるわけじゃないですか。その人たちが中心に声をかけていくという感じなんですか。

○委員 P T Aから来る人たちと半分ぐらい。

○副議長 P T Aから来る人たちは、取りあえず充て職ではないですけど、最初は充て職で2名ぐらい。

○委員 充て職が半分ぐらい毎年いる。

○委員 希望して来る人も中にはいらっしゃいますね。

○委員 そうそう。うちの子、科学くらぶに入りたいから行くとか。

○副議長 入っているから私も行くわ。それで人数がちょっと増えたり。

○委員 そういう人が貴重です。

○委員 そうですね。でも、子どもが辞めたら辞めちゃったりする方もいらっしゃるし、残る方もいる。

○副議長 その残る人ですよ。

○委員 そうです。子どもが卒業しちゃったのに、まだいてくれるという人。

○副議長 今度はそういう人に話を聞きたいですね。残ってくれた人に。

○委員 それを研修会でやったんですよ。そしたらみんな、何でこんな研修しなくちゃいけないんでしょうと最初は思っていたけど、こんなの自分でやりたくなかったとか言っていて、いつの間にかこういうふうにやれるようになった、自分が地域の人になれた気がしてうれしかったって言っていた。

○副議長 それを研修会の場で意見交換ですか。

○委員 内部の研修会のときに何かお話ししてくださいと言ったら、立派な作文を書いてきてくれた。

○副議長 さっき強調していた研修というのが、やっぱりすごいですよね。

○委員 立ち上げは当時の青少年委員から来た人です。

○副議長 もちろん外部から来て話を聞く場合もあれば内部で意見交換というか。

○委員 大人の研修ですもんね。

○委員 私たちが目指したのは、カリスマ性は要らない、民主主義でやっていこうねというのをずっと言っていて、1人の人が駄目と言ったからといって駄目になるようなもの

をつくらない。

○委員　そういう時代時代というか、状況に応じても変化している。

○委員　そうですね。でも、カリスマ性の方がいなかったら、多分ここは成立していないので、やるわよという人がいなかったら。

○委員　スタートのときですね。

○委員　民主主義で反対ですという人のほうが多かったかもしれない。

○委員　それはそれでいい時代だったという、今は今でまた変えながら。

○副議長　先ほども問題提起があったように、ずっとそこに戦前から続いている町会で幅を利かせていたりして、ある程度プライドがあると新しい人が入ってきにくい。

○委員　そうですね。まず町会側も用心しちやって声をかけないじゃないですか。

○副議長　どんな人か分からないし。

○委員　さっき言ったとおり町会はお金を持っていますから、何かのイベントがあればびっくりするぐらいの寄附はします。それで町会費が上がっていくのは事実なんですけれども、古くからある町会はどうしてもなかなか……。若い人も今の話を聞いて、P T Aの人が町会と仲よくなりたいと言いながら一抹の……。

○委員　でも、若いP T Aのお母さんたちとお祭りとかに一緒に来て、今はできないけれども、ビールをついでもらったりして、おじいちゃんたちはうれしそうですよ。

○副議長　そういう意味で、信用、信頼を、どういうふうに若い人を信じるか。

○委員　若い人は役に立つ。

○委員　動けるんですよね。

○委員　あと、あの人たちはこういうのは苦手だから、町会のこういうのを作ってあげる。議事録も作ってあげる。

○副議長　信用しないと、やばそうとかいうと、どんどん若い人がいなくなっちゃうわけですね。

○委員　いろんな技術を持っている人はいますものね。

○委員　いるし、普通の人でも入稿までできるようになっちゃって、これはプロっぽいお母さんがやっていますけど、そのくらいのレイアウトだったら、データ入稿できるようになっちゃうし、みんなすごい。

○委員　人材ですかね。

○委員　若い人材ですよね。

○委員 人は育つんです。

○委員 地域でも育つということですよね。実際されていますから、続くんですよ。あと、PTAとかおやじの会をやらせていただいて、先輩方は引っ越してここに住んでいるちょっと上の先輩という、もう70近い人なんですけれども、言われたのは、俺はこの地域に骨を埋めるつもりで、ここで子育てをしているんだということで、そこまでの覚悟だから、俺は地元の祭り事だとか、そういうのをやるんだという意気込みですね。

○委員 でも、私たちの間でも、マンションを買いましたというのが、もうここで頑張るわという1つのきっかけにはなりますね。

○委員 そうすると、我々と仲よくなって、子どもは原風景が一緒じゃないですか。ここに育つ子どもはここが地元になりますから、お父さん、お母さんは違うところが地元かもしれないけれども、あなたの息子は僕と同じここが地元だから、一緒に大切にしようね。

○委員 子どもたちの中に地元意識もすごくありますね。

○委員 やっぱり古い人との考え方の切り替えですね。

○委員 だから、どこでもできると私は思っているんですよ。すごくすばらしい、こういう人たちがいるからできるんじゃないくて、どの地域でもできると思う。最初は小さなことから、おやつステーションから始めて。

○委員 去年もそうになりましたよね。尾山台のプロジェクトに関して、どこでもできますと。尾山台だから、特別だからできているんじゃないとおっしゃいました。

○委員 私たち全然特別じゃない。普通の人たち。

○副議長 やりたいという人が何人か集まって。

○委員 やりたいと思うようになる。やりたいスイッチ。

○副議長 やりたいスイッチ。なるほど。やりたいスイッチというものもある程度認めてあげるとのことと、先ほどから民主的……。

○委員 あの人すごいよねとか、私たちはかなりリスペクトし合っています。

○副議長 最後に重要なところはリスペクトのところ。

○委員 お互いがリスペクトしている。

○副議長 人のところですね。

〔全体〕

○議長 今まで2つのグループA、Bに分かれてそれぞれ話をしていたのですが、

ここでまた皆さんお集まりいただいて、A、Bそれぞれどんな話があったのかというのを、まず報告していただこうと思います。

では、Aから、いいですかね。

○委員 2つの子ども食堂を中心に話をお聞きしました。検討事項が幾つかあったんですが、けれども、まずは、活動がうまくいっている要因ということで、いろいろ出たのですが、まず大事なことは、ルールを決めていく。子どもたちはいろんな子がいますので、ある程度の基本を示していかないといろんな形の問題も起きてくるということで、ルールを決めるということと、スタッフに関係するんですけれども、こういう趣旨でやるんだ、こういう目的でやるんだということをしっかり文章化して、スタッフの間でコンセンサスを取ってやっていくということが大事じゃないかということでありました。

ただ、そういう中でもいろんな人がいますので、その趣旨に賛同ができないとか、あるいはトップの意見に対して反対するということが、必ずしもスタッフの中がうまくいっているとは限らない。うまくいかないこともある。そういう場合には調整するトップの人が必要だ。ただ、本当にその趣旨に添わない人はバイバイするほかないんじゃないのかなというようなことも必要だということがありました。

うまくいっている一番の要因は人のつながり。トップがいて、それに対して趣旨がちゃんと理解できて、循環して回っていくというのが一番大事なことじゃないかという結論がありました。

それから、うまくいっていない要因。先ほどちょっと出たのですが、やっぱりスタッフの中の意見の食い違いで組織がうまく回らなくなるというのが大きいかなということと、子ども食堂の場合には親の理解、親が本当にそれを理解して子どもたちを送り出すかということと、親がそれに対して本当に理解していないと、子どもにそれが乗り移って、子どもが暴れたり、子どもの中の関係がうまくいかなかったりする場合もあるということだそうです。

今のところ、コロナがあって非常に大変なんだそうですけれども、やはり経済的な援助とか寄附とか、あるいは食品の寄附とかがあって、そういう意味では、まだ今のところはそんなに困ってはいないという話がありました。

それから、メンバーなんですが、スタッフは中心になる人がいて、お手伝いをする方がいて、あとはアルバイト的に、もちろんお金は出していないんですけれども、学生さんがお手伝いに来ている。そういうスタッフの中で回っているということで、先ほどもありま

したけれども、趣旨にそぐわない反対の人はしょうがないだろう。新しい方は口コミで入ってきてもらうという形が今のところなんだと思います。

とてもいい話があったのですが、活動持続の問題です。活動の持続と人の持続。つまり、どういふことかといいますと、例えば1つの子ども食堂が1年なり2年やって終わった。そこで一応やめましょうよとなったところも、そこで人のつながりができているから、その人のつながりがそのまま新しい子ども食堂に移行するというこゝで、活動がもちろん大事なんだけれども、活動を基にして人のつながりができて地域のつながりができる、それが一番大事なことじゃないかなというお話がありました。それは非常に印象に残りました。

最後にもう一つ、子ども食堂の一番いいところは、みんなで御飯を食べるという喜びが、子どもたちは今、非常に少ない。家庭で一緒に御飯を食べる。孤食とか習い事でお弁当を食べるとか、そういうことになっていて、みんなで食べるというのは学校の給食で食べるものと子ども食堂で食べるものと、それしかない子どもが非常に多いということゝで、それが一番の成果じゃないか。もちろん貧しい子どもたちに食べ物を与えるということゝは、それが趣旨なんですけれども、それ以上にみんなで食事をするという喜びを地域の人々で与えてあげるということゝは、一番の大きな成果じゃないかというのを結論としてお話ししたいと思います。

以上です。

○議長 ありがとうございます。御質問等もあるかもしれませんが、まずAグループでどんな話があったのかということゝを御紹介いただいたということにしたいと思ひます。

では、続きましてBグループでどのような話があったのかということゝを報告していただきたひと思います。

○委員 Bグループでは、前回もお話を聞きましたけれども、子どもぶんか村の活動についてお話を伺ひました。前回聞いたときも、聞くだけで楽しそうな活動だな、うまくいっている事例だなというのゝは皆さん感じていらっしやったと思うんですけれども、聞けば聞くほど、その実感が強くなつていきました。

まず、20年続く要因は何だろうということゝで、みんなで意見を出し合ひました。一番最初のスタートは、強い意思を持ったリーダーが、やるわよという意思表示をしてくれたことゝで、有無を言わさず、みんながそれに協力する形でやっていこうというふうに始まったそうなんですけれども、その後は民主主義的に、皆さんが、これはいいんじゃないかと言

ったことは続け、ちょっとこれはやらないほうがいいんじゃないかという意見も言いやすい雰囲気にあったのではないかと私は思いました。仕事じゃないから、そんなにやらなくてもいいんじゃないのという御意見もあったそうなんですけれども、実際にやっていらっしゃる方が、子どもたちが楽しんでくれるならということで、すごく熱意を持って続けてこられたのが20年続いた要因ではないかと思います。

さっきAグループのほうのお話でも出たと思うんですけれども、まず人ですね。組織がうまくいっている要因は、人が集まって人材が育っていくというところにあるのではないかと思います。また、青少年地区委員会の活動ですので、地元の町会から出てきた方、PTAから一役だったり委員として出てこられた方、青少年委員の人が集まっての活動にはなっているんですけれども、町会の方の高齢化は課題としてあるものの、新しく入ってきた方をどうやって地区委員会につなげて続けて活動をしてもらうかというところが課題の一つです。

そうはいつでも、PTAで入ってこられる貴重な存在の方が、最初に来たときはお役目として来られたにしても、やっているうちに楽しんでやりたいと思っていただけたとか、自分の子どもがこれをやるから、私もそこのお手伝いがしたいという前向きな考えの方がやってくださると、その方が後々、町会に入って地区委員会のメンバーとなり、ぶんか村を支える核のメンバーになっていったりということで、ぶんか村の活動は理事の12名の方が核になって続けていらっしゃるということです。もちろんほかの団体で活動していらっしゃる方でもありますので、そこから少しずつ人の広がりも出てきているそうです。

そもそも子どもぶんか村はなぜ始まったかという、約20年前に学校が週5日制になったときに、土曜日の子どもの居場所ということで何とかならないでしょうかという学校のほうからの御依頼があったそうです。そちらに地区委員会のメンバーの方が、やろうじゃないかということで始まったとお聞きしました。

私も青少年地区委員という活動はしてきたんですけれども、何だかこの船橋地区委員会はちょっと違うなというお話が出ました。どうしてなのでしょうね。やりたいと思えることがあるところじゃないかと考えております。ほかの地区委員会がやりたくないことをやっているというわけではなくて、みんながやりたいことをやろうという気持ちがとても強いんじゃないかと思います。

このぶんか村が地区委員会の中で存続していくのには、やっぱりきちんとした土台がありまして、年に7回から8回のメンバーの研修活動、地域の人との懇談などによって環境

整備がしっかりとなされている。こちらが両輪となって活動の基になっているとお伺いしました。

課題としましては、先ほども申し上げました町会の方の高齢化とか、若い世代をいかに取り込んでいくか、地区委員会でやっていることが楽しいんだよという発信によって、地区委員会という活動に対する信用とか信頼がどれだけ勝ち取れるかというところにも活動の継続が見込まれるところかと思います。

あとは、さっき子ども食堂のほうでは寄附があつて、今のところ財政的には問題ないとおっしゃいましたけれども、船橋地区委員会はぶんか村だけではなくて、いまくいつていらっしゃるからだと思うんですけれども、また新しい企画を立ち上げられて、「おやつステーション」という子どもにお菓子をあげて、子どもが喜んでお菓子を持って帰る。それだけの活動なんですけれども、この二、三年、コロナ禍でいろんなことができなかった中で、おやつステーションの活動で子どもたちが喜んでくれる。じゃ、頑張って続けようじゃないかということで、今そちらの財政的な問題が起こっているそうです。

以上になります。

○議長 ありがとうございます。それでは、今、Aグループ、Bグループのディスカッションの様子を報告していただきましたので、この後は全体でそれぞれのグループで話し合ったことを基にしながらディスカッションを深めていきたいと思います。

では、A、B今お話しいただきましたけれども、それぞれのグループ、あるいは共通して、こんなことをもう少し聞いてみたいというようなことがございましたら、どなたかからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 すみません。私、最後に1つだけ大事なことを言い忘れました。ぶんか村の中でいろんなことができる方がたくさんいらっしゃるんですけれども、その方々がお互いに、あなたそんなことができるのはすごいわねというような、メンバー同士の方がお互いのリスペクトがあると最後におっしゃったのを忘れておりました。

○議長 質問のほか、これを言い忘れたということでもいいのですが、いかがでしょうか。

○委員 理事が12名いらっしゃることなんです、理事というのは12名の方は替わらないわけですね。

○委員 替わります。二、三人は入れ替わるかな。最初から20年続けているのは半分、五、六人です。

○委員 それは制度として替わるんじゃないくて。

○委員 家族の事情とかいろんな事情です。1回辞めても、また戻ってきてくださった方もいらっしゃる。辞めますと言ってくださったら次の人を見つけなくちゃいけないので、早く言ってねといって、11月ぐらいには言ってもらうようお願いはしています。

○委員 子どもぶんか村の話をさっきたくさん聞かせていただいたんですけども、地区委員会の活動としてやっていらっしゃるということでしたが、ほかにも地区委員会の活動はありますよね。ぶんか村だけが地区委員会の活動ではないと思うんですけど、そういったものは委員の方の負担になったりはしないんでしょうか。

○委員 うちは研修と環境整備部という理論と実践が両輪で、両輪が大事だと思っているので、そういうことはない。

○委員 ぶんか村というぐらいだから文化活動ですよ。スポーツも文化なんです。そういう需要とかニーズはないんですか。体を動かすことをやろうよとか、そういうニーズは会員の中からはないですか。

○委員 私はゴルフクラブをつくりたいと言ったことがあるんですけど、却下されました。サッカーとかバスケットはいっぱい今あるので、これをやってくれと言われたことはないです。

○委員 当分、文化の領域でやっていくという方向性ですよ。

○議長 そのほかいかがでしょうか。

○副議長 私も改めて子どもぶんか村の活動を伺って、先ほど報告してくれたとおりなんですけど、1つ研修というのが非常に大きな役割を果たしているのかなと思いました。メンバー間でちゃんとその活動の意味や、活動をやってみて果たしてどう感じていたかというのを、交流を通じてちゃんと客観視もできる。やってよかったとか、こういう点で自分は成長できたとか、そういう機会がちゃんと設けられているというのは非常に大きなことなのかなと思いました。

もう一つ、しきりと言っていたのは、民主的だということを結構おっしゃっていたと思うんですよ。うちはかなり民主的だと。というのは、引がかかったのは、地区委員会の活動として子どもぶんか村をやっているときに、町会がベースじゃないといけないんだという話を聞いて、片や委員のお二人から、町会が高齢化が進んでいる。若い人が町会に入ってくれないときに、言葉が適切かどうか分かりませんが、ある意味ちょっと古い体質で、若い人が入ってくるのを警戒しているという部分と、ある意味、信用、信頼していないという部分があるところとは真逆なんですよ。先ほど言ったように、私はゴルフクラブをやりたい、でも賛成者がいなかったからやれなかった。そういう自由意思を若い人も自由に言

えるような雰囲気が多分あるんだなと思いました。

そういう意味では、充て職とはいえ、PTAとのつながりで、PTAの若い人が数名、最低限2名で、それ以外にもいっぱい関わってきたときに、そういう自由な雰囲気があるからこそ、やりたい人は次も残っていこうかという形で現在まで引き継がれているのかな。そういう意味では、ある意味運営面というか、雰囲気も非常に大切なんだろうと思いました。ありがとうございました。

○議長 ほかはいかがでしょうか。今日のグループワークのテーマの一つは、「持続可能な活動とは」ということで、持続可能な秘訣は何だろうかということがそれぞれのグループで話されたように思います。また、前回のときにはいろんな活動がある中で、今日はいらっしやらなかったのですけれども、おやじの会もあって、PTAというと何となく女性のイメージがありますが、そういう意味で、おやじはお父さんかなと最初は思ったのですが、そうではなくて親と子どもということらしいのですが、そういうおやじの会の継続性も、今後皆さんとお話ししていきたいと思っていますが、多分、子どもぶんか村とか、おやじの会とか、子ども食堂は、いろんなタイプの典型の例として取り上げられるんじゃないかとお話を伺っていて思いました。

Bグループのほうにはいなかったのですが、今報告を聞くと、Aグループとしても出てきた話としては、リーダーの存在がある。それから、リーダーも含めてそこに関わる方たちが楽しんでやるんだというのが出てきておりましたし、お互い信頼できるような関係性があるんだということも出てきました。ただ、Bグループのほうでは、研修ですとか民主的な雰囲気というのがキーワードに出てきていて、それが青少年地区委員会がベースになりながらも20年続いていた活動であり、かつ、ほかの委員会からすると、ちょっと違うよねというようなことがあるらしい。まだよく分からないところはあるんですが、ほかとは違った中で、ほかでもいい活動をたくさんされているんだと思うんですけれども、子どもぶんか村でのある種のよい活動を継続していくときの秘密があって、それが少しずつ明らかになってくるんじゃないかと思っています。

Aグループのほうは、一番最後に出てきたのは、活動として継続しているけれども、1つの子ども食堂が必ずしも継続しているわけではない。つまり、20年間1つの子ども食堂が継続しているかというのと、そうではない。これも今日、初めて私は分かったのですが、2人の子どもに子ども食堂が必要だと思ったら、2人のために子ども食堂をやる。だけど、子ども食堂はその2人が大きくなったら、ある時点ではもしかしたら必要なくなる。する

と、子ども食堂の活動は必要なくなることがいいことなのかもしれないというような話も出てきて、そうすると、ある1つの子ども食堂は続かない。でも、そのときに子ども食堂に集った仲間たちは、別の子ども食堂の活動として、あるいはほかの活動として継続していくという形なんですね。そうすると、先ほど船橋ぶんか村で言われたような意味でのぶんか村として20年の活動は見えにくくなるけれども、子ども食堂というもののでも、そこには形を変えた継続性がある。その形を変えた継続性には、やはり代表を含めて工夫されているところとか、組織的には小さなものであるけれども、そういった活動の秘訣があるんじゃないかということを、今日のお話で感じました。

何を申し上げたいかということ、最初に戻りますけれども、いろんな活動がされていて、その活動の代表の方たちが集まっていて、今日はお話を聞くことはできませんでしたけれども、総合型地域スポーツクラブの話とか、おやじの会ですとか、また、何と紹介すればいいですかね。

○委員 世田谷区青少年委員会です。

○議長 それは地域ごとにいろいろある？

○委員 今の話の内容ですと青少年地区委員会です。

○議長 そうすると、その地区委員会としての継続性の話とか、あるいは8つでしたか、10個でしたか。

○委員 世田谷区青少年委員会は8ブロックに分かれております。

○議長 そうすると、8ブロックの中でも濃淡があったりということで、それをどうしたらいいのかと考えていく必要があるんですけども、そんなふうに趣旨が大事で、規模感とか組織とかビジョンを持ってやっていらっしゃると思うんですけども、子ども食堂は組織らしい組織がない中で継続していくという、すごく不思議で興味深いところなんですけど、それも誰かが研修しているというわけではないですけども、一緒に考えていたりするということがある。そういう中でいろんなタイプとか趣旨が違うレパートリーがある中で、それぞれのこういうのだったら、こういうところがきっとキーになるんじゃないかというのが今後もお話を伺っていく中で明らかになってくると、うちはこういうことをやりたいので、これは子ども食堂に近いかなとか、これは青少年地区委員会の活動に近いかなというふうな思いを持って見ると、それぞれの継続性のために役立つようなアイデアというか、ものを見つけることができるんじゃないか。そういったものをお話の中で抽出できたら面白いんじゃないかと思いながら伺っておりました。

また、学校は、こんなことが今困っているとか、学校からすると、こういうところがすごく魅力であるとか、気になるとかということも教えていただきました。そうすると、地域の活動だけじゃなくて、学校と教育委員会との関わりも、こんなことを皆さんと議論していく中で、またどうつくっていったらいいのかということが見えてくるんじゃないかなと思いながら伺っておりました。

感想ですけれども、そんなことを申し上げて、私なりの今日の学ばせていただいたことというふうにしたいと思っております。

時間はまだありますけれども、ほかはいかがでしょうか。

事務局から何かありますか。

○事務局 特にはないんですが、今日それぞれのグループでお話ししていただいた内容については、事務局で改めて作成させていただいて、また皆さんにフィードバックさせていただきますので、今後の参考として資料を作成させていただきたいと思っています。

○議長 例えば研修といった場合に、どういう研修がどんなふうになされているのかというのには興味がありますし、ほかのところでも参考になると思いますし、子ども食堂の話では、例えばディスカッションの中で、私が子ども食堂を来月からやりたいと思ったら、すぐできますよとおっしゃるんですね。できるんでしょう。けども、単に御飯を作って待っていても子どもは来ませんよね。そうすると、やりたい思いがあっても、どういうふうにそれが実現するか。ハードルは低い。保健所に届ける必要はないけれども、何なんだろう。どうして子ども食堂をやりたいと思われたんですかとお話ししたら、ちょっと言っているかどうか、でも、さっきオープンにされたので、いろんな介護の問題があって、そこでいろんな方にお世話になったので、広い意味で恩返しをしたい。これは僕の言葉ですけれども、そういうふうな思いから何かというときに子ども食堂を始められたと、さっき伺いました。ただ、子ども食堂といっても路面型とおっしゃいましたけれども、見えるところで、あそこで子どもたちが夕方集まって食べているねというふうに見えるといいんですけど、奥のほうでやっている、なかなか入りにくいこともあるようですし、まだ全て理解できていないんですけれども、子ども食堂でも、幾つかされているんですよね。簡単に御紹介いただくと、タイプでいうと幾つあるんですか。

○委員 一番初めに始めたのは、いわゆる商店街のところに出身している小さなレンタルスペースでやっていたものと、中学校の家庭科の調理室をお借りしてやっているものと、あとはまちづくりセンター内のふれあいルームでやっているものなので、後者2つは外から

見えない。いわゆる会員制という形のものなので、ふらっと入ってきてもらったり、こういった活動をやっているから寄附してくれるというような人との出会いはないところだ。最初の路面店と言っている商店街にあるところは、継続的にやっていると、そういった活動に賛同してくれる人が来てチャリンと入れていってくれたりとか、自分の過去にあった話をしていかれたりとか、いろいろな人との出会いがあって、そういった意味でも地域の人とのつながりを感じられる場です。

何事もやってみないと分からないし、意図したものと全く違う展開があったりするので、そういう楽しさはこういう地域活動のよさなので、初めは課題を解決するためという思いで、そういう志でやっていたのですが、だんだん経ていくうちに、そうではなくていろんなことを経験する場で私が成長させてもらう、そしてそういうことを感じられる感性が少しずつ養われているような、何かで評価されるとか評価するとかということじゃない、そういうものを頂ける場所なんじゃないかと思っています。それは本当に目の前にある問題解決のところだけにフォーカスしてやっている活動となっているので、皆さんそれぞれ思いは違うんですけども、多分そういった小さな目がそこここにあることが大事なんじゃないか、そうすると世の中が優しくなっていくんじゃないかという気持ちがしております。

○議長 ありがとうございます。今のお話にもあったように、何か組織があってやっているということではないので、タイプで分けたときに、そういうものではないということが分かると思います。それから、継続性と言いましたけれども、変化していくことにむしろ意味を持つとか、変化しないでつくっていくというよりは、変化していくことが継続のポイントである。でも、学校とか地域のまちづくりセンターは行政の組織ですよ。そういうところとも関わっている。その一方で、学校関係者が知っているかという、まだ知られていない部分もあるのかなと思いながら、そういう活動の全容がどれぐらい押さえられているのかと思いながらお聞きしておりました。その意味でいろんなタイプがどうもあるらしい。うまく分類できるか分かりませんが、それぞれのタイプごとにポイントとなるようなものがあるし、でも、共通しているところもあるし、違うところもあるというような整理の仕方をやっていったら、これしかないということではなくて、なかなか面白いものになるんじゃないかと思いながら、今日のディスカッションを拝聴しておりました。

○委員 先ほど議長が言ってくれたのですが、いろいろなタイプがあるということは本当

だと思うんですね。今日は2つの話がありましたけれども、先ほどお配りしました総合型地域スポーツクラブが、実は今、東深沢、用賀、烏山、城山、駒沢、尾山台、若林、日女クラブと8つあるんですね。基本的には二十何年前に文科省が地域スポーツクラブの運動をやって、今は全国で3000ぐらいあるのかな。行政主導なんですけど、世田谷は特殊で、地域主導なんです。もちろん行政から補助は受けていますけれども、基本的には地域活動なので、今日はもういいんですけれども、私は東深沢と駒沢の立ち上げに関わりましたので、次回等で、もしできたら御紹介させていただければと思っています。今のいろんな種類の一つとしてお願いしたいと思っています。よろしくお願いします。

○議長 ぜひそういう機会を考えたいと思います。

そのほかいかがでしょうか。ほぼ定刻になると思っておりますけれども、最後にこれはちょっと言っておきたいというのは、大丈夫ですか。

では、本日の会議はここまでとしたいと思います。今後の進め方について、改めて事務局とも相談しながら決めていきたいと思いますが、先ほど委員からありましたように、ほかにもこういう活動があるんだということですね。そういったものをまた何う機会をつくりながら、今日のテーマである活動の継続性、単に継続するだけじゃなくて、よりよくしていくというか、どうやって広げていくかということも含めながら、何がキーになるのかというのを考えていけたらなと思っております。

日程について、事務局から。

○事務局 次回第3回目の定例会ですが、皆様、日程調整ありがとうございました。9月6日火曜日、18時半から行います。ただ、場所に関しては今調整中ですので、改めて御連絡をさせていただきます。また、10月に第4回も予定しておりますけれども、こちらでもまた皆様と日程調整をさせていただきながら決めていきたいと考えておりますので、引き続き御協力、よろしくお願いいたします。

○議長 第3回が9月6日火曜日で、第4回はこれから日程調整するけれども、10月ぐらいということですね。

○事務局 はい。ついでながら申し上げますと、11月にシンポジウムを予定しております。何とかそこに向けて、次回以降は形になるようなものを今日の御意見も踏まえてつくっていききたいと思っておりますので、また改めて議長と相談しながら御提示させていただきたいと思っております。

○委員 そのシンポジウムの日程は出ているのですか。

○事務局 これからになります。まだ確定はしておりません。

○議長 11月の土曜とか日曜とか。

○事務局 外部の方も公募して集まっていただくことを考えますと、土日の昼間の時間帯を考えております。

○議長 この日はどうでしょうかというのを幾つか考えて、事務局を通じて皆さんにもお諮りするような形で決めていくということだそうです。

ほかに特にないようでしたら、本日の会議はこれで終了とさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。